

史跡 中里貝塚

整備基本計画

【第4回委員会資料】

東京都北区教育委員会

第1章 計画策定の経緯と目的

1-1	計画策定の経緯	3
1-2	計画の目的	5
1-3	計画の対象範囲	5
1-4	関連計画との関係	6
1-5	委員会等の設置	7
1.	史跡中里貝塚整備基本計画策定委員会	7
2.	中里貝塚ワークショップ	9

第2章 計画地の現状

2-1	自然的環境	13
1.	地形・立地環境	13
2.	気候	14
3.	植生	14
4.	景観	15
2-2	歴史的環境	16
1.	旧石器・縄文時代	16
2.	弥生・古墳時代	17
3.	奈良・平安時代～中世・近世・近代	17
4.	北区内の指定文化財	19
2-3	社会的環境	22
1.	北区の概要	22
2.	計画地および周辺的环境	24
3.	法規制	32

第3章 史跡の概要および現状と課題

3-1	史跡の概要	41
1.	史跡指定地	41
2.	調査の概要	44
3-2	史跡中里貝塚の本質的価値の把握	50
3-3	史跡を構成する要素	53

3-4	史跡指定地の現況	54
1.	史跡の整備・活用のための諸条件の把握	54
2.	課題の整理	57

第4章 基本理念・基本方針

4-1	基本理念及び整備目標の設定	61
4-2	整備のテーマ	61
4-3	整備の基本方針	62

第5章 整備基本計画

5-1	全体計画およびゾーニング計画	
5-2	遺構保存に関する計画	
5-3	動線に関する計画	
1.	「史跡指定地周辺」(史跡指定地のみの見学)	
2.	中里貝塚ファンゾーン内(北区飛鳥山博物館と合わせての見学)	
5-4	案内・解説施設に関する計画	
5-5	地形造成・給排水に関する計画	
5-6	遺構の表現に関する計画	
5-7	整備事業に必要となる調査等に関する計画	
5-8	修景および植栽に関する計画	
5-9	管理施設および便益施設に関する計画	
5-10	周辺地域の環境保全に関する計画	
5-11	公開・活用に関する計画	
5-12	管理・運営に関する計画	
5-13	事業計画	

完成イメージパース

参考文献一覧

図表出典



第 1 章 計画策定の経緯と目的

第1章 計画策定の経緯と目的

1-1 計画策定の経緯

東京都北区に所在する中里貝塚は、縄文時代中期から後期にかけて、当時の海岸線に形成された大型の貝塚である。平成8年（1996）の発掘調査が端緒となり、中里貝塚は縄文時代の生産や社会的分業、社会の仕組みを考える上で重要な遺跡として、平成12年（2000）、国史跡に指定された。その後、平成24年（2012）に史跡指定地の隣接地において追加指定を行い、遺跡の保護を図っている。

最初の史跡指定から20年近くが経過する中で、北区教育委員会は、中里貝塚の歴史的価値を再評価し、その価値を広く周知することを目的として、平成30年度に『史跡中里貝塚総括報告書』を刊行した。また史跡指定地は「中里貝塚史跡広場」の暫定的な整備にとどまっており、活用が十分に図られていない状態である。このことから、中里貝塚の価値を高め、適切に保存・継承し、史跡を活かしたまちづくりを推進していくため、令和2年（2020）3月に「史跡中里貝塚保存活用計画」を策定した。さらには本計画に基づき、整備の基本理念および史跡指定地を中心とした具体的な整備内容を検討・実現化するため、続く令和2年度において、「史跡中里貝塚整備基本計画」を策定することとなった。



写真 厚く堆積した貝層 (A 地点)

「史跡中里貝塚保存活用計画」の概要

(1) 基本方針（大綱）

本計画は、北区の長期総合計画である「北区基本計画 2015」および「北区基本計画 2020」を具現化するための1つの施策として位置づけられるものである。その基本方針（大綱）には、「保存管理の方針」「活用の方針」「整備の方針」「運営・体制の方針」の4つを保存・活用の柱として挙げている。

① 保存管理の方針

国内最大規模を誇る縄文貝塚を **守り、伝える**

— 史跡の本質的価値を適切に保存し、後世へ確実に継承する —

〈方向性〉

- ・ 史跡の本質的価値を適切に保存し、後世へ確実に継承するために必要な取扱基準を定める。
- ・ 貝塚全体の構造解明のための追加調査や周辺の関連遺跡等を含めた継続的な調査を行う。

② 活用の方針

貝塚を拠点とした縄文時代の社会構造とともに **学び、活かす**

— 地元住民や来訪者等の史跡に対する理解を深め、協働による史跡の保存活用を目指す —

〈方向性〉

- ・ 北区飛鳥山博物館のみならず、現地においても積極的に情報発信を行う。
- ・ 区民や地元団体、近隣の教育機関、関係諸機関等と連携しながら、史跡保護の気運の醸成を図る。
- ・ 中里貝塚の活用を、地域コミュニティの維持や発展につなげる。

③整備の方針

特徴的なハマ貝塚の価値を **感じ、高める**

－ 史跡の本質的価値を顕在化し、現地で貝塚が実感できるような環境整備を目指す －
 〈方向性〉

- ・ 本質的価値の「周知」「体感」を軸に、史跡の本質的価値を顕在化させる。
- ・ 史跡指定地周辺は住宅街であるため、住民生活に十分に配慮した整備を行う。

④運営・体制の方針

地域に根差した史跡と人々を **つなぎ、育てる**

－ 調査研究の推進や保存管理体制の充実、および関係諸機関との連携や地元参画など、幅広い人材の確保と育成に努め、持続可能な体制づくりを図る －

〈方向性〉

- ・ 地域住民や関係団体との協力や連携を図り、安定した運営体制を維持する。
- ・ 国や東京都、北区の関係部局、教育機関や専門家等と密に情報共有を行い、史跡を活かしたまちづくりの実現を目指す。

(2) 整備事業計画

「史跡中里貝塚保存活用計画」では、令和2年度に整備計画を検討する委員会を組織し、段階的な整備を目指すこととしている。

＜短期的な整備＞

- ・ 中里貝塚史跡広場の整備
- ・ 見学ルートの設定および看板等の製作・設置
- ・ デジタル機器を駆使したプログラムの導入

＜中・長期的な整備＞

- ・ 上中里2丁目広場の整備委託
- ・ 貝塚の規模が体感できる方法の検討
- ・ ガイダンス施設等の検討

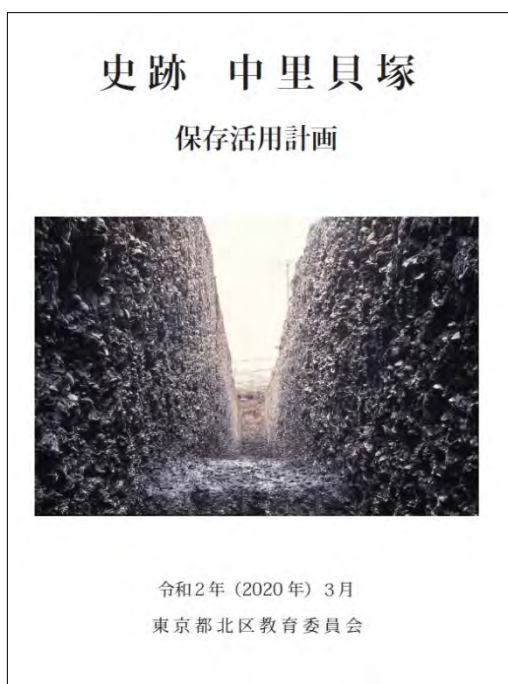


図 保存活用計画

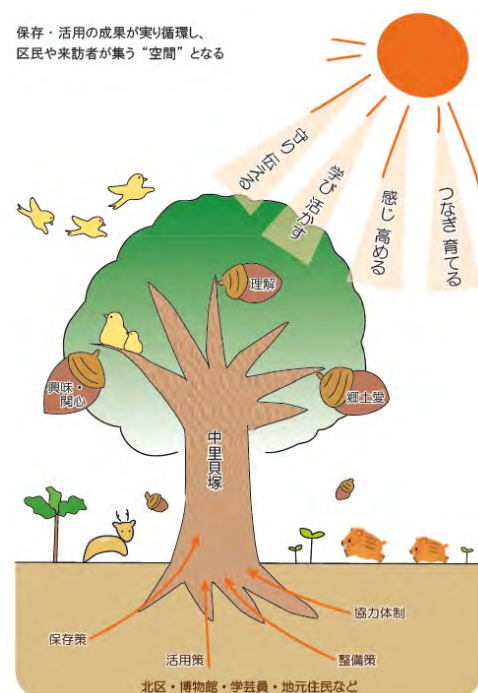


図 保存活用の考え方

1-2 計画の目的

「史跡中里貝塚整備基本計画」は、「史跡中里貝塚保存活用計画」に定められた事項を実現するために、より具体的な整備方針を定めることを目的とする。

中里貝塚の本質的価値は、その多くが地下に埋没した状況にある。本質的価値を確実に保存しつつ、効果的な活用を推進していくためには、これらの顕在化を図り、現地にて周知・体感できるような整備が求められる。しかしながら本史跡は市街地に立地することから、整備活用には住民生活との調和が重要課題に挙げられる。したがって本整備基本計画の策定にあたっては、社会情勢のみならず、地域住民からの意見を十分に踏まえ、検討をすすめることとする。

1-3 計画の対象範囲

中里貝塚は、東京都北区上中里二丁目に位置する。JR 京浜東北線・新幹線車両基地と尾久操車場、宇都宮線・高崎線などの線路群に挟まれる形となっている。貝層の分布は、長さ 600~700 m、幅 100m以上に及び。貝層の堆積は概ね 1.0~4.0mとみられ、中心部から北側に離れると徐々に薄くなっていく様相を呈す。

史跡指定地は現在、「中里貝塚史跡広場」と「上中里2丁目広場」の2箇所に分かれているが、中里貝塚の整備活用にあたっては、「史跡中里貝塚保存活用計画」において、現在の調査研究拠点である北区飛鳥山博物館および周辺に点在する文化財と一体的に行うことが望ましいとされている。よって本計画は、史跡指定地から北区飛鳥山博物館に至るまでの、広域エリアを対象範囲とする。



図 貝層の範囲 (『史跡中里貝塚 総括報告書』p119 を改変)



図 計画の対象範囲 (『北区観光ガイドマップ (季節巡り)』に一部加筆)

1-4 関連計画との関係

本計画は、『北区基本計画 2020』や「史跡中里貝塚保存活用計画」を上位計画としている。北区では、区政の基本方針を示した『北区基本計画 2020』を基に、魅力あるまちづくりを進めている。当計画では、「健やかに安心してらせるまちづくり」、「一人ひとりがいきいきと活動するにぎわいのあるまちづくり」、「安全で快適なうるおいのあるまちづくり」の3つの基本目標と、25の施策が示されている。

それらの中で、特に(2-3)「個性豊かな地域文化の創造」が文化財と密接に関わるものとなっている。その基本方針の1つには「歴史的文化的の継承と活用」として、北区が誇る歴史的文化的を保存し、次世代に継承していくために文化財の積極的な活用に取り組むことが示されており、施策の方向には、次の4点が挙げられている。



図 北区基本計画 2020

[施策の方向]

歴史的文化的の継承と活用

- 歴史的文化的を保存し、次世代に継承していきます。
- 中里貝塚を保存し、国史跡指定地の整備活用を行います。
- 史跡や文化財を観光資源として積極的に取り入れることで来街者の増加を図ります。
- 子どもの頃から北区の歴史や文化財について学ぶ機会を提供し、区民の郷土に親しむ気持ちを育てます。

また第1章にて述べたように、本計画は「史跡中里貝塚保存活用計画」における基本方針（大綱）や方向性をもとに、整備の理念や方針等を示すものである。その他、史跡の整備活用においては『北区教育ビジョン 2020』をはじめとした教育・観光・環境・景観等の関連計画とも密接に関わることから、これらの諸計画と整合性を図りながら、検討を進めていく。

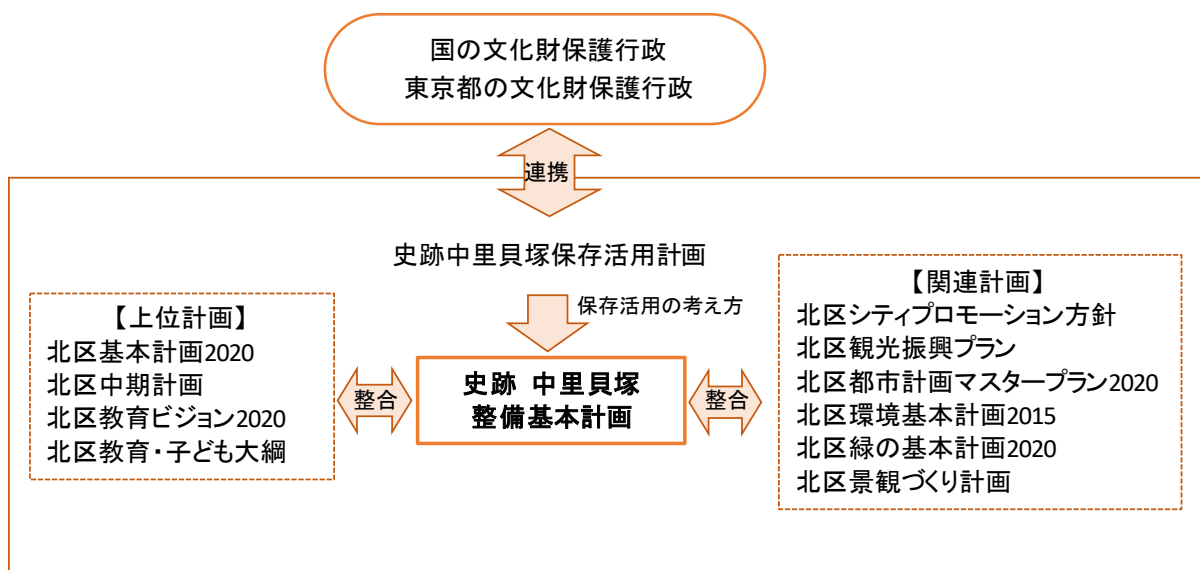


図 関連計画との関係

1-5 委員会等の設置

1. 史跡中里貝塚整備基本計画策定委員会

本計画の策定にあたり、「史跡中里貝塚整備基本計画策定委員会（以下、「委員会」という）」を設置し、整備活用の基本方針や具体的な整備計画等の検討を行った。委員会は各分野の専門家や地元町会・自治会、公募区民や関係機関の代表者から構成され、文化庁文化財第二課、東京都教育庁地域教育支援部管理課もオブザーバーとして出席し、指導や助言を受けた。委員会の構成と経過は次の通りである。

(1) 委員会の構成

委員

氏名	所属名等
石川 日出志	明治大学教授(考古学)
吉村 晶子	名城大学教授(都市計画)
植月 学	帝京大学文化財研究所准教授(考古学)
松本 晴光	昭和町地区自治会連合会会長
山田 和夫	上中里貝塚町会会長
長濱 恵美子	公募(北区在住)
西原 令春	公募(北区在住)
山口 宗彦	北区立滝野川第五小学校長

オブザーバー

岩井 浩介	文化庁文化資源活用課 整備部門(記念物)文化財調査官
田所 真	東京都教育庁地域教育支援部管理課 学芸員

区関係理事者

丸本 秀昭	まちづくり部都市計画課長
岩本 憲文	土木部参事(土木政策課長事務取扱い)
杉戸 代作	土木部道路公園課長

教育委員会事務局

小野村 弘幸	教育振興部長
野尻 浩行	教育振興部飛鳥山博物館長
鈴木 直人	教育振興部飛鳥山博物館 事業係長(学芸員)
牛山 英昭	教育振興部飛鳥山博物館 事業係(学芸員)
安武 由利子	同上
高坂 勇佑	同上
加藤 由子	教育振興部飛鳥山博物館 事業係

(2) 委員会の経過

第1回委員会：令和2年（2020）7月[書面開催]

- ・委員長選任

第2回委員会：令和2年8月[書面開催]

- ・史跡の現状と課題
- ・史跡整備の基本方針

第3回委員会：令和2年9月28日

- ・整備計画案の提示

第4回委員会：令和2年12月7日

- ・
- ・

第5回委員会：令和3年（2021）2月●日

- ・
- ・

※新型コロナウイルス感染拡大防止のため、第1回および第2回委員会は、書面による開催とした。

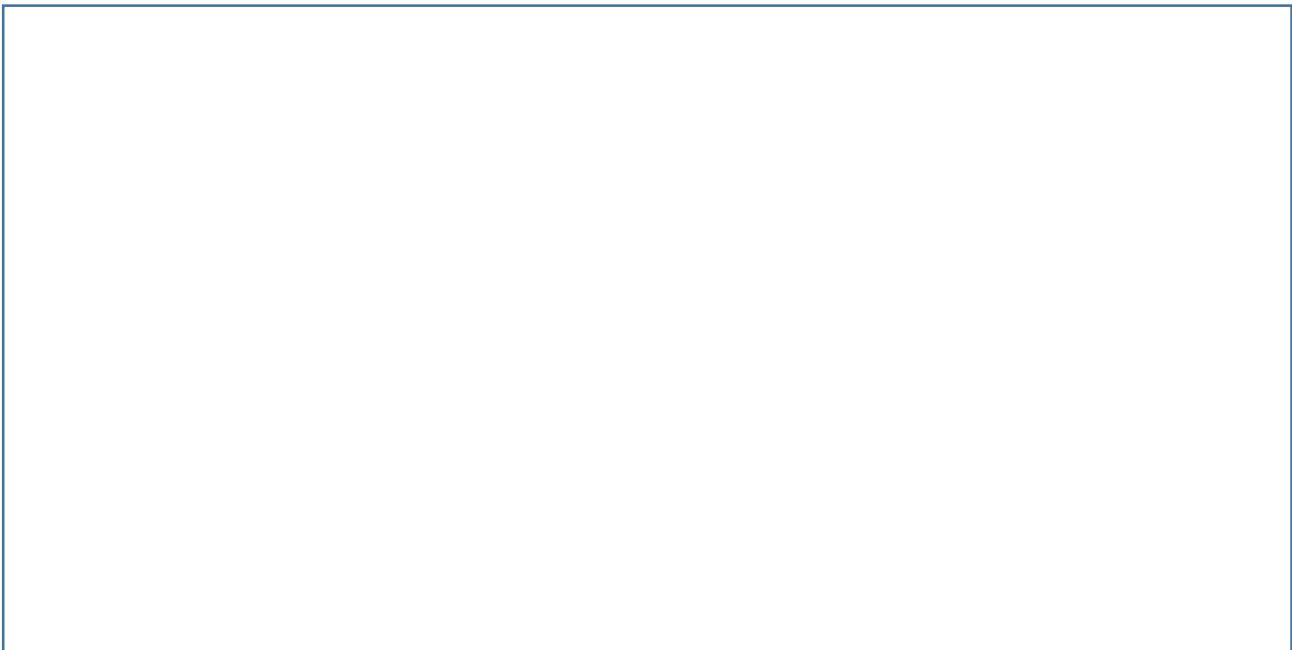


写真 委員会の開催風景

2. 中里貝塚ワークショップ

委員会での整備基本計画策定と並行して、公募区民によるワークショップを実施した。これは、史跡の活用に向けて、地域住民の参画が欠かせないことから、中里貝塚3つのエリアである研究エリア（北区飛鳥山博物館）、体験エリア（中里貝塚史跡広場）、見学エリア（上中里2丁目広場）について地域住民の意見を集約し、計画に反映させることで、より実行性のある整備基本計画を作成することを目的としている。ワークショップの経過は以下の通りである。

ワークショップの経過

第1回ワークショップ：令和2年（2020）8月[書面開催]

- ・ワークショップの目的、内容、スケジュール等の確認
- ・過去に実施したワークショップの内容の共有
- ・中里貝塚史跡広場に関する意見交換

第2回ワークショップ：令和2年9月6日

- ・中里貝塚の「整備・活用」に関する意見交換

第3回ワークショップ：令和2年10月4日

- ・中里貝塚史跡広場の整備計画案に関する意見交換

第4回ワークショップ：令和2年〇月〇日

- ・基本計画（案）概要の報告
- ・中里貝塚史跡広場基本計画図の報告

※新型コロナウイルス感染拡大防止のため、第1回ワークショップは、書面による開催とした。

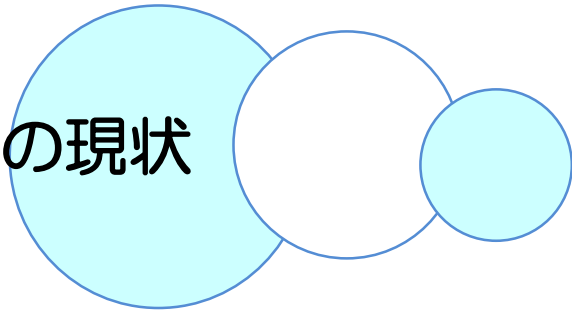


写真 第2回ワークショップ



写真 第3回ワークショップ

第2章 計画地の現状



第2章 計画地の現状

2-1 自然的環境

1. 地形・立地環境

中里貝塚は、東京都北区の南西部、上中里二丁目に所在する。東京都北区は、洪積台地の武蔵野台地およびそれに連なる沖積低地の東京低地という地勢からなり、武蔵野台地の北東端ならびに東京低地の西端に位置する。台地縁の崖線は北西から南東に走り、北区管内を東の低地側と西の台地側とに分けている。

中里貝塚は、武蔵野台地の北東端「本郷台」と崖線を介して連続する東京低地の西端、崖線直下の沖積地に立地しており、北西には、武蔵野台地から出たばかりの石神井川の流れが見られる。なお東京低地は、武蔵野台地と対岸の下総台地の間に横たわる幅広い沖積地である。この地形は、元々最終氷期極相期に古東京川により浸食された大きな谷地形で、縄文海進最盛期（6,000～6,500年前）に、当地が奥東京湾化した際、分厚な海成層（有楽町層）によって埋積されたものである。

縄文時代前期末から中期にかけては、寒冷化による小海退が進み、海岸線は徐々に後退したとみられている。その際、本郷台直下の東京低地には砂州が形成され、飛鳥山微高地、田端微高地と呼ばれる2つの微高地が広がった。前者は、武蔵野台地を流下してきた石神井川が東京低地に出る付近に発達したもので、河成地形とも考えられるが、後者の成因は不明である。砂州については、海食崖が波の営力により浸食されていく過程で崩された本郷層や立川・武蔵野ローム層等が基本材料となり、形成されたと推定されるものである。中里貝塚はちょうど、この田端微高地の北西側に接して分布することが判明している。

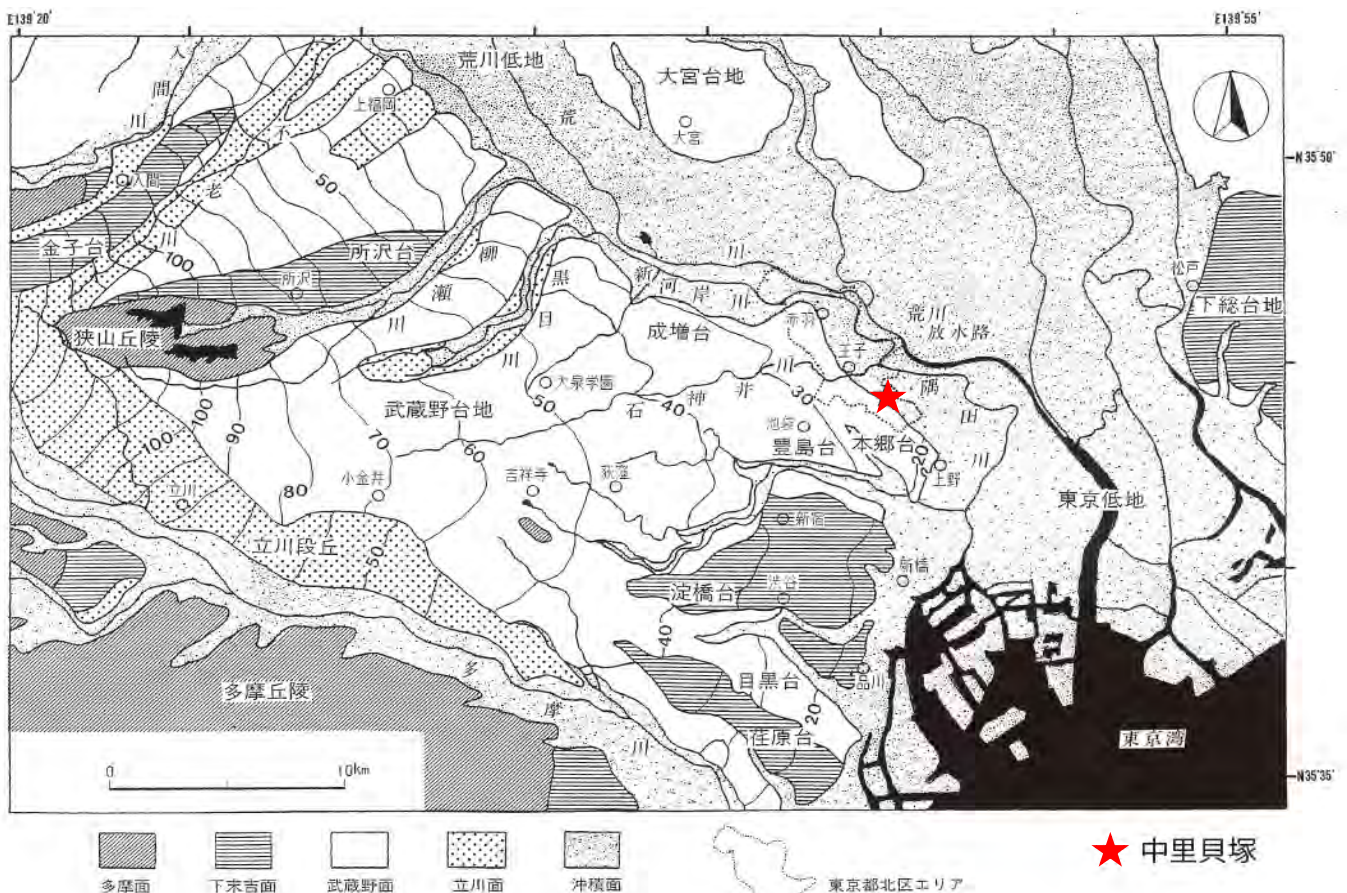


図 東京付近の地形面区分



図 指定地の周辺地域を構成する諸要素

2. 気候

- 夏季は暑く多湿、冬季は寒く乾燥するという典型的な東日本型の太平洋側気候となっている。
- 平成 30 年の年平均気温は 16.8℃、年最高気温は7月の 39.0℃、年最低気温が1月の-4℃となっている。

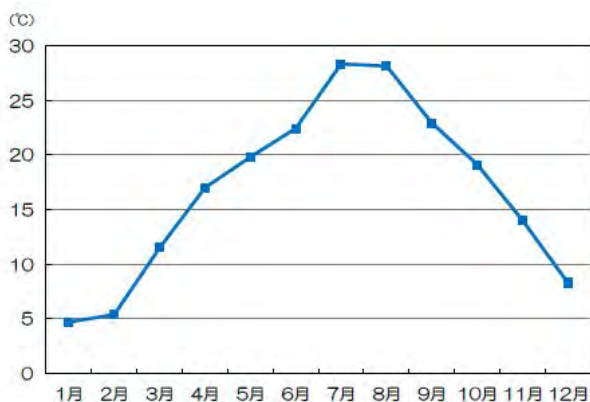


図 平成 30 年の東京の月別平均気温

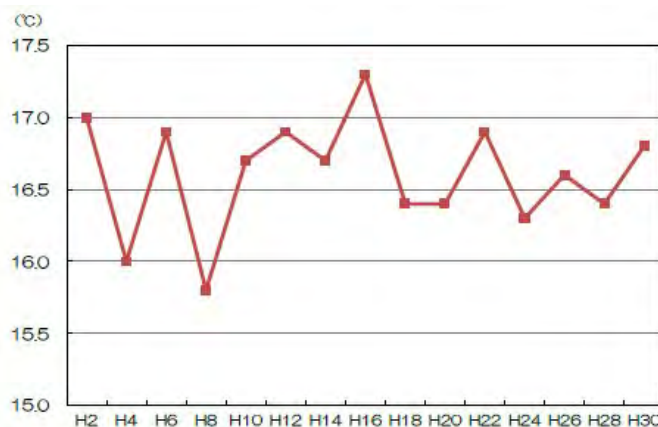


図 東京の年平均気温の推移

3. 植生

- 平成 30 年度の北区緑の実態調査報告書によると、北区飛鳥山博物館のある滝野川西地区は、重要種としてニッケイ、トサミズキ、キキョウ、タイワンホトトギス、シラン、キンラン、トウゴクシダ、アスカイノデ、ハリガワウラビ、アイナエ、アヤメ、ショウブ、ホンモンジスゲ、メアゼテンツキが確認されている。
- 中里貝塚史跡広場、上中里2丁目広場のある滝野川東地区は重要種としてイヌカタヒバ、シロヤマブキ、タイワンホトトギス、シラン、アヤメが分布しており、特定外来生物はオオカワチシャ、オオキンケイギクが確認されている。

4. 景観

- ・北区飛鳥山博物館のある滝野川西地区は、飛鳥山公園や旧古河庭園などの歴史的・文化的資源が多くみられ住宅地の中に歴史的資源・文化的資源、水やみどりなどの景観資源が点在している。歴史的資源として平塚神社、金剛寺などの寺社、西ヶ原一里塚などがある。
- ・中里貝塚史跡広場、上中里2丁目広場の滝野川東地区は歴史的資源の法音寺、東灌森稲荷神社がある。

[滝野川西地区]

滝野川1～3丁目、滝野川5～7丁目、西ヶ原1～4丁目、上中里1丁目、中里1～3丁目、田端1～6丁目

[滝野川東地区]

堀船1～4丁目、栄町、上中里2～3丁目、昭和町1～3丁目、東田端1～2丁目、田端新町1～3丁目



滝野川東地区		滝野川西地区		旧北区景観百選 (1998認定)		
74	尾久車両センター	85	近藤勇と新選組隊士供養塔	H-13	12	飛鳥山から王子神社にかけての緑
75	東京新幹線車両センター	86	北谷端公園	H-14	L-12	
76	新幹線の遠景	87	板橋駅前通りの桜並木	H-14	L-12	
		88	南谷端公園	H-14	P-14	
		89	西ヶ原みんなの公園	K-14	L-12	
		90	滝野川公園	M-13	P-14	
		91	無量寺	M-13	O-13	
		92	霜降銀座商店街	M-13	P-15	
		93	聖学院小学校脇の坂道	M-14	L-12	
		94	聖学院小学校脇の桜並木	M-14	J-12	
		95	女子聖学院礼拝堂	M-14	P-15	
		96	田端駅前	N-14	J-12	
		97	田端駅南口駅舎とその周辺	N-14	M-13	
		98	東覚寺	P-14	J-12	
		99	与楽寺	P-14	P-14	
		100	幽霊坂	P-15	K-11	
				P-15	L-13	
					M-13	
					L-13	
					P-15	
					M-14	

図 滝野川東地区、滝野川西地域の景観資源 (『みんなで作る北区景観百選 2019MAP』より)

2-2 歴史的環境

1. 旧石器・縄文時代

旧石器時代の遺物が出土している遺跡は、御殿前遺跡・飛鳥山遺跡・田端町遺跡・田端西台通遺跡である。御殿前遺跡では、ナイフ形石器をはじめとする石器や火を焚いた痕跡を示す赤色化した礫（礫群）が集合して出土している。特筆されるのは有樋尖頭器と呼ばれる石器が発見され、有樋尖頭器の製作に関連する破片類も数多く出土しており、本郷台地上の貴重な事例である。

縄文時代草創期では土器は発見されていないが、草創期に特徴的な石器が西ヶ原貝塚で出土している。早期では燃系文土器や条痕文土器が飛鳥山遺跡・御殿前遺跡・中里遺跡などで出土しており、遺構は御殿前遺跡で早期後半の炉穴3基が検出されている。

縄文海進最盛期の前期では、海岸線を見下ろす台地上には、飛鳥山遺跡で関山式期の貝塚、七社神社前遺跡で黒浜式期の貝塚や諸磯式期の径200m規模の中央部に墓群を伴う環状集落などが営まれている。諸磯式期の墓塚から多量の浅鉢形土器や玦状耳飾が出土している。

前期末から中期にかけては寒冷化による小海退が進み、海進最盛期の海岸線は徐々に後退していった。中里貝塚に隣接する中里遺跡では、中期前半と推定されている丸木舟（東京都指定有形文化財）が田端微高地の砂層中から発見され、出土した多量の煤けた縄文土器や土器片錘、焼礫群などは、海岸線での活発な活動を物語っている。縄文人の居住地は、勝坂式期の七社神社裏貝塚や大蔵省印刷局内貝塚、加曾利巨式期の御殿前遺跡など、台地上の集落であった。漁期には海岸線に下り立ち、採貝や採藻、漁撈を行ったと推測される。



写真 七社神社前遺跡（土墳墓）



写真 中里遺跡（丸木舟）

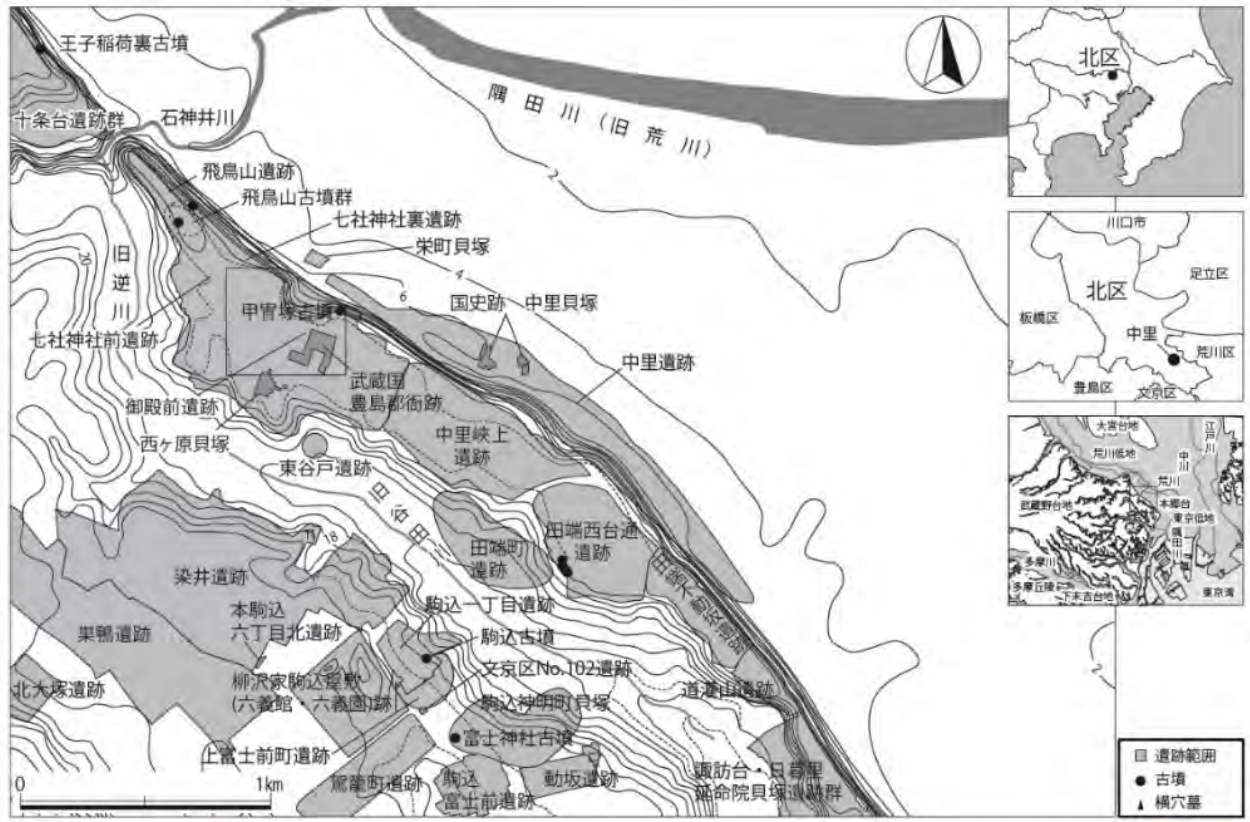


図 中里貝塚と周辺の遺跡位置図（『史跡、中里貝塚保存活用計画』 p. 18）

後期には海退がさらに進み、中里遺跡では埋没林や泥炭層の堆積する湿地が確認されている。出土遺物は激減し、中期から後期初頭まで続いた海岸線での活動は終焉を迎える一方、台地上では学史上著名な西ヶ原貝塚（東京都指定史跡）が崖線の反対側の開析谷に面して馬蹄形貝塚を形成し、集落は晩期まで堂々と存続する。近年、西ヶ原貝塚出土の土器から新たな製塩研究が進展している。ほかでは後期の称名寺式期から堀之内式期にかけて、御殿前遺跡・飛鳥山遺跡・七社神社裏遺跡・中里峡上遺跡などで竪穴建物や土坑から土器・石器・石棒・貝ブロックなどが出土しているが、その規模は大きくない。晩期の遺跡は、西ヶ原貝塚以外では中里貝塚から晩期の安行式土器が出土している。

2. 弥生・古墳時代

稲作が開始される弥生時代前期の明確な遺跡は詳らかではないが、中期に入ると集落遺跡が登場する。戦前に発見された飛鳥山遺跡出土の土器は、山内清男によって「飛鳥山式」という土器型式が設定され、南関東で本格的な稲作社会が形成され始めた段階に位置づけられている。中期後半の宮ノ台式期には飛鳥山遺跡に環濠集落が営まれ、環濠の外側に方形周溝墓群が検出されている。同時期の集落遺跡は、南から荒川区道灌山遺跡・飛鳥山遺跡・亀山遺跡・赤羽台遺跡が台地上の端部に連なって分布している。そのうち道灌山・飛鳥山・亀山の3遺跡は、東京低地を見下ろす環濠集落である。

後期には集落数が増えその規模も大きくなる。中里貝塚周辺の台地上には、御殿前遺跡・七社神社前遺跡・田端西台通遺跡・田端不動坂遺跡など連綿と集落遺跡が分布し、なかでも御殿前遺跡を中心とする西ヶ原の集落規模は格段に大きい。御殿前遺跡では後期前半に環濠集落が造られ、環濠外に方形周溝墓群を有している。後期後半の弥生町式期にはさらに竪穴建物数は増加し、方形周溝墓・土坑から鉄剣や鉄釧など副葬品が発見されている。また、田端西台通遺跡の方形周溝墓からも鉄剣・鉄釧や多量のガラス小玉が出土しており特筆される。

後期末から古墳時代前期にかけては集落規模が縮小し、遺跡数も減少する。田端不動坂遺跡では、珠文鏡と呼ばれる小型の青銅鏡と勾玉・管玉・ガラス小玉など総数140点以上の玉類が土坑から一括出土し、4世紀後半にムラの廃絶にあたって行われた祭祀に伴う宝器と考えられている（東京都指定有形文化財）。当該地では、次の5世紀代の集落遺跡は確認されていない。また、当該期の古墳も未検出である。

古墳時代後期では、小規模ながら集落と古墳が発掘調査されている。集落遺跡は中里峡上遺跡だけであり、古墳は飛鳥山古墳群と田端西台通古墳群の2つの円墳群があげられる。集落の造営年代と古墳の築造年代は、いずれも6世紀末から7世紀前半にかけてであり、古墳の埋葬主体部が確認されたのは飛鳥山1号墳のみである。

3. 奈良・平安時代～中世・近世・近代

奈良時代直前の7世紀後半、御殿前遺跡一帯には武蔵国豊島郡衙が創建される。豊島郡衙は、平安時代前期の9世紀後半まで200年近く継続的に造営された古代律令期の地方官衙である。これまでの調査で郡庁や正倉院、館などの諸施設が発見されており、有数の郡衙遺跡として著名である。昭和58年（1983）に豊島郡衙が初めて発見された調査地点（現、北区防災センター、滝野川体育館、滝野川消防署）は、北区史跡に指定されている。

また、郡衙の至近には中里峡上遺跡・田端西台通遺跡・田端不動坂遺跡の律令集落があり、郡衙の造営期間にほぼ併



写真 飛鳥山遺跡（環濠）



写真 飛鳥山1号墳（横穴式石室）



写真 御殿前遺跡

行する。田端西台通遺跡では、和同開珎が1点出土している。

豊島郡衙や集落遺跡が終焉を迎えた後の古代末期に相当する遺跡は明確ではないが、11世紀になると豊島郡を支配する中世領主・豊島氏が豊島郡衙の跡地周辺に本拠をおき、鎌倉時代へと移る。平塚神社周辺の台地上には、太田道灌が文明9年（1477）に落城させた豊島氏の居城・平塚城が築城されたと伝えるが、中世の溝址や地下式坑、板碑など大規模な発掘調査で検出されてはいるものの城郭の実態は解明されていない。なお、崖線下の中里遺跡で出土した青磁・白磁など舶載磁器は、豊島氏を筆頭とする武士たちの存在を想像させる資料となっている。

戦国時代が終わり江戸時代になると、徳川將軍家の鷹場が設置された。御殿前遺跡の「御殿前」は小名であり、元は鷹狩の際に使用された御殿を意味するものである。また、飛鳥山が江戸の名所となったのは八代將軍徳川吉宗の桜植樹によることは良く知られ、整備された街道の日光御成道に西ヶ原一里塚（国史跡）が置かれた。現在の本郷通りには旧道を挟んで一対の塚が現存しているが、これは旧位置に保存されている都内唯一のものである。王子・飛鳥山・滝野川は日本橋から約2里の距離にあり、江戸市中から日帰り可能な渓谷美と桜の山で有名な名所として親しまれていった。

北区の地は幕末まで江戸北郊の農村に過ぎなかったが、明治以降急速に都市化が進み、千川上水・石神井川・荒川の水利によって近代産業が開花する。日本で最初の綿紡績工場あるいは抄紙会社や印刷局抄紙工場などが石神井川下流部に相次いで建設され、王子周辺に繊維・製紙・薬品などの諸工場が集積して近代産業発祥の礎を築いた。

また、西ヶ原には樹木試験場や蚕病試験場、農事試験場など農業関係の研究機関が次々に開設され、近代農業技術の中心地であった。なお、飛鳥山から西ヶ原には近代の国指定文化財が点在することもこの地の特色になっている。旧渋沢家飛鳥山邸（晩香廬）・旧醸造試験所第一工場の2つの重要文化財（建造物）に加え、旧古河氏庭園の名勝がある。



図 「飛鳥山花見」(勝川春潮)



写真 旧渋沢家飛鳥山邸（晩香廬）



写真 旧渋沢家飛鳥山邸（青淵文庫）



写真 旧醸造試験所第一工場



写真 旧古河氏庭園

4. 北区内の指定文化財

北区には、国指定文化財8件、国認定重要美術品1件、国選定保存技術保持者1件、国登録有形文化財（建造物）2件、東京都指定文化財7件、北区指定文化財37件、北区台帳登録文化財11件があり、その内訳は以下の通りである（令和2年3月現在）。

指定文化財一覧

指定文化財一覧（国）

名称	区分		指定年月日
西ヶ原一里塚	史跡	—	大正11年3月8日
奥山峰石（喜蔵）	重要無形文化財	工芸技術	平成7年5月31日
スタンホープ印刷機	重要文化財	歴史資料	平成10年6月30日
中里貝塚	史跡	—	平成12年9月6日 平成24年9月19日追加指定
旧洪沢家飛鳥山邸 （晩香廬・青淵文庫）	重要文化財	建造物	平成17年12月27日
旧古河氏庭園	名勝	—	平成18年1月26日
近代教科書関係資料 内訳 教科書類 掛図 版画 版木	重要文化財	歴史資料	平成21年7月10日
旧醸造試験所第一工場	重要文化財	建造物	平成26年12月10日

〈国認定重要美術品〉

名称	区分		指定年月日
額面著色鬼女図	—	—	昭和9年9月

〈国選定保存技術保持者〉

名称	区分		指定年月日
小澤正実	選定保存技術	甲冑修理	平成10年6月8日

〈国登録有形文化財（建造物）〉

名称	区分		指定年月日
旧赤羽台団地四一～四四号棟	建築物	住宅	令和元年12月5日
稲荷湯浴場兼主家、同長屋	建築物	文化福祉	令和元年12月5日

指定文化財一覧（都）

名称	区分		指定年月日
西ヶ原貝塚	史跡(旧 旧跡)	—	平成11年3月3日(大正8年10月) 平成24年3月21日追加指定
飛鳥山碑(旧飛鳥山の碑)	有形文化財(旧 旧跡)	古文書	平成8年3月18日(大正15年4月)
多紀家墓所 附 金安氏墓5基 (旧多紀桂山一族墓)	史跡(旧 旧跡)	—	平成23年6月9日(昭和11年3月4日)
王子神社のイチョウ	天然記念物	—	昭和14年3月
稲付城跡	旧跡	—	昭和36年1月31日
中里遺跡出土丸木舟	有形文化財	考古資料	平成16年3月10日
田端不動坂遺跡第17地点第8号土坑出土遺物	有形文化財	考古資料	平成18年3月16日

（指定解除）

旧古河庭園	名勝	—	昭和57年8月4日
-------	----	---	-----------

指定文化財一覧(区)

名称	区分		指定年月日
王子田楽	無形民俗文化財	民俗芸能	昭和62年4月1日
御殿前遺跡	史跡	—	昭和62年4月1日
『若一王子縁起』絵巻(模本)	有形文化財	歴史資料	昭和62年12月17日
豊嶋村武藤家文書 附 複写資料	有形文化財	古文書	昭和63年11月14日
木造太田道灌坐像 附 厨子	有形文化財	歴史資料	平成元年1月25日
赤羽台第3号古墳石室	有形文化財	考古資料	平成元年1月25日
岩井家生活用具	有形民俗文化財	—	平成2年2月13日
紙本著色平塚明神并別当城官寺縁起 絵巻	有形文化財	歴史資料	平成3年2月22日
平塚神社文書	有形文化財	古文書	平成3年8月29日
十条富士塚 附 石造物	有形民俗文化財	—	平成3年11月11日
浮間村黒田家文書	有形文化財	古文書	平成4年3月11日
瀧野川村芦川家文書	有形文化財	古文書	平成5年1月12日
静勝寺除地検地絵図・古文書	有形文化財	古文書	平成5年10月25日
王子村真壁家文書	有形文化財	古文書	平成6年4月12日
木造豊島清光坐像	有形文化財	歴史資料	平成6年11月22日
西蓮寺板碑群	有形文化財	歴史資料	平成7年7月24日
稲付の餅搗唄 附 餅搗用具一式	無形民俗文化財	民俗芸能	平成8年1月23日
阿弥陀三尊来迎画像夜念仏供養板碑	有形文化財	歴史資料	平成8年9月24日
豊島馬場遺跡出土ガラス小玉鋳型	有形文化財	考古資料	平成9年9月2日
赤紙仁王(石造金剛力士立像)	有形民俗文化財	—	平成10年4月28日
東谷戸遺跡出土土偶	有形文化財	考古資料	平成10年10月13日
東京書籍株式会社附設教科書図書館 東書文庫 附 建築工事記録他35ミリ フィルム	有形文化財	建造物	平成11年3月9日
旧松澤家住宅 附 倉屋	有形文化財	建造物	平成11年3月31日
七社神社前遺跡出土鉄釧	有形文化財	考古資料	平成11年10月4日
田端西台通遺跡出土鉄剣およびガラス 小玉	有形文化財	考古資料	平成12年2月8日
王子村大岡家文書 附 典籍・絵画	有形文化財	古文書	平成12年4月11日
木像阿弥陀如来坐像	有形文化財	彫刻	平成13年4月10日
中里遺跡出土縄文土器	有形文化財	考古資料	平成13年4月10日
熊野神社の白酒祭(オビシヤ行事)	無形民俗文化財	風俗慣習	平成14年4月9日
御殿前遺跡祭祀遺構出土土器	有形文化財	考古資料	平成14年4月9日

近藤勇と新選組隊士供養塔	有形文化財	歴史資料	平成15年12月10日
七社神社前遺跡土坑群出土資料	有形文化財	考古資料	平成15年12月10日
滝野川村榎本家文書 附 民俗資料	有形文化財	古文書	平成18年4月11日
田端富士三峰講祭祀具 附 関係文書	有形民俗文化財	—	平成21年12月9日
高木助一郎日記 附 挿入文書	有形文化財	古文書	平成22年12月8日
滝野川村戸部家文書	有形文化財	古文書	令和2年6月9日
山川城官墓碑 附 山川家墓碑・記念碑	有形文化財	歴史資料	令和2年6月9日

(指定解除)

中里遺跡出土独木舟	有形文化財	考古資料	平成2年9月20日
田端不動坂遺跡出土古墳時代祭祀遺物	有形文化財	考古資料	平成15年5月13日

台帳登載文化財一覧(区)

名称	区分		指定年月日
王子村大字豊島渡船場資料 附 箱1合	有形文化財	古文書	平成元年7月10日
青面金剛種子庚申待供養塔	有形文化財	歴史資料	平成3年7月4日
石造青面金剛立像	有形文化財	歴史資料	平成3年7月4日
庚申待供養石造地藏菩薩立像	有形文化財	歴史資料	平成4年1月13日
静勝寺近代文書	有形文化財	古文書	平成4年12月3日
下村富田家文書	有形文化財	古文書	平成21年10月5日
浮間村立石(邦)家文書	有形文化財	古文書	平成21年10月5日
香取神社本殿	有形文化財	建造物	平成21年10月5日
阿夫利神社社殿 (熊野神社旧本殿)	有形文化財	建造物	平成21年10月5日
正光寺山門	有形文化財	建造物	平成22年11月11日

2-3 社会的環境

1. 北区の概要

(1) 北区の位置と立地

北区は東京23区の北部に位置する。荒川を隔てて埼玉県川口市・戸田市に、東は荒川区および隅田川を隔てて足立区に接し、また一方で南は文京区・豊島区、そして西は板橋区に接する。東西に約2.9km、南北に約9.3kmと、南北に細長い形状をしており、面積は20.61km²である。

武蔵野台地の縁辺部から東京低地へと連続した地勢を有し、飛鳥山の桜や荒川、隅田川、石神井川といった水辺空間に囲まれた、緑豊かな自然が魅力となっている。一方で、JRの駅が都内最多の11駅有することに加え、地下鉄、都電が通ることから、交通の利便性の良さも注目される。



図 北区の位置 (区勢要覧より)



写真 飛鳥山の桜

(2) 交通網

北区内の鉄道網や道路交通網は、JR線をはじめ、地下鉄や都電、バスなど複数の公共交通機関が集まっており、都心へのアクセスが充実している。

主な路線としてJR京浜東北線、JR埼京線、JR山手線、JR上野東京ライン、JR宇都宮線・高崎線、JR湘南新宿ライン、東京メトロ南北線、東京さくらトラム(都電荒川線)がある。

中里貝塚史跡広場、上中里2丁目広場までは、JR3駅から徒歩でアクセス可能である(尾久駅5分、上中里駅10分、田端駅15分)。

北区飛鳥山博物館へはJR京浜東北線および東京メトロ南北線王子駅より徒歩5分、東京さくらトラム飛鳥山停留場より徒歩4分でアクセス可能である。



北区飛鳥山博物館外観

(3) 人口

令和2年(2020)1月1日時点の住民基本台帳によると、北区の総人口は353,908人、世帯数は198,711世帯で、人口密度は17,172人/km²となっている。

人口の推移に関しては、昭和55年(1980)以降は減少傾向だったが、2000年代からゆるやかな増加傾向に転じた。『北区人口推計調査報告書(平成30年3月)』によると、北区の人口は当面増加が続くものの、令和10年(2028)の362,006人をピークに、以降は減少局面となり、令和30年(2038)には356,691人へと減少するとみられている。

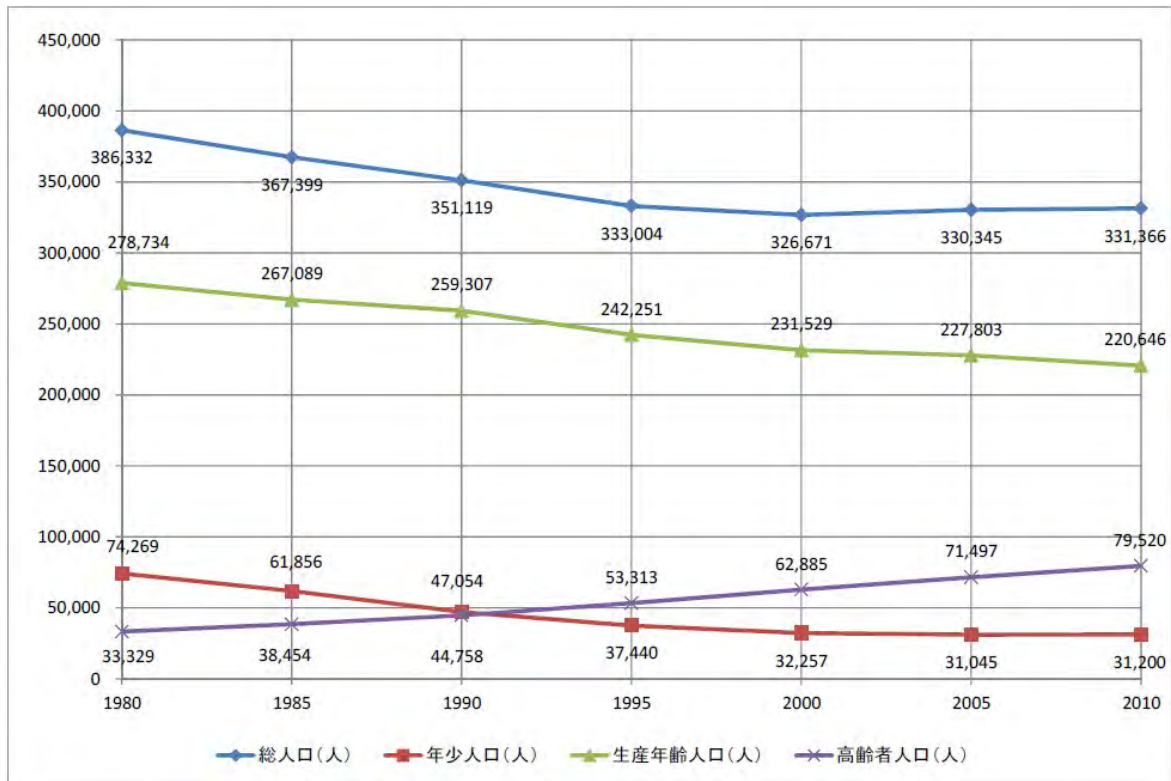


図 北区の人口推移(総務省 国勢調査参照) ※刊行までに2015年、可能ならば2020年分を追加予定

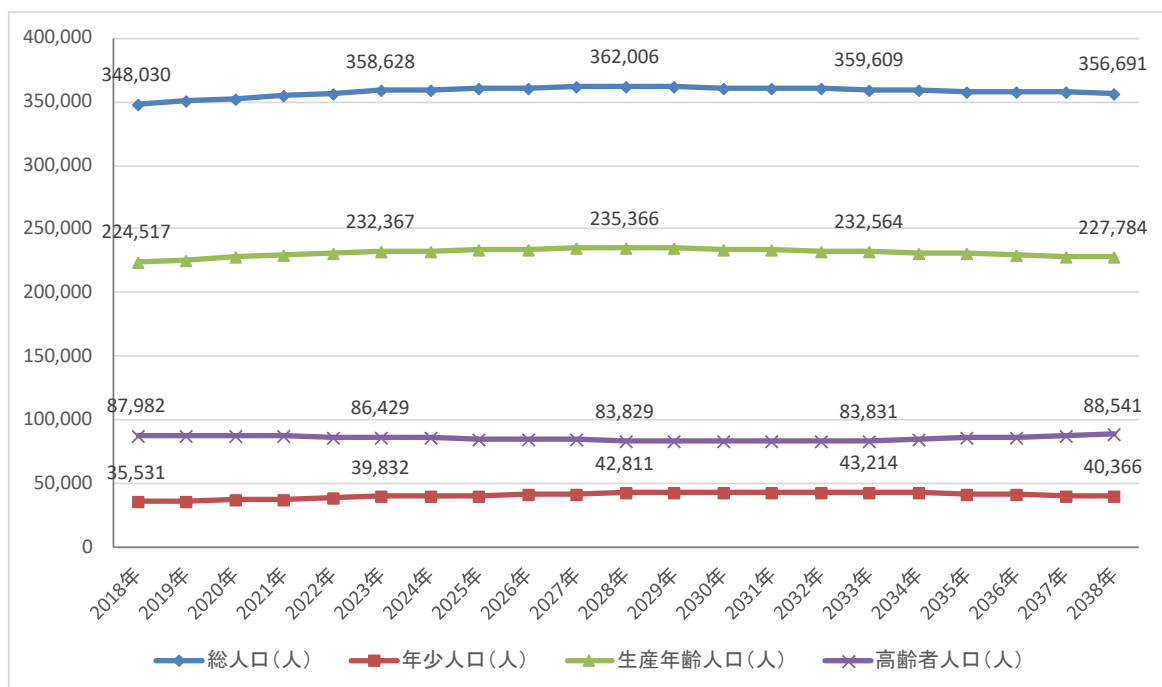


図 北区の総人口および年齢3区分別人口推計(『北区人口推計調査報告書』より作成)

2. 計画地および周辺環境

(1) 史跡指定地

① 中里貝塚史跡広場

本広場は、2箇所に分かれた指定地の西側に相当する。広さは4,071.04㎡である。

広場は金網柵で囲まれており、周囲には住宅とビルがある。

広場に入る入り口は、南・北・東の3箇所がある。夜間は施錠している（南側は常時施錠）。広場内は、全面芝で覆われており、史跡標柱2箇所、説明板1箇所のほか、花壇がある。

広場の維持管理は、北区が地元町会から成る「中里貝塚史跡広場管理委員会」に委託し、門扉の開錠・施錠や、広場の清掃および除草、花壇の管理を行っている。

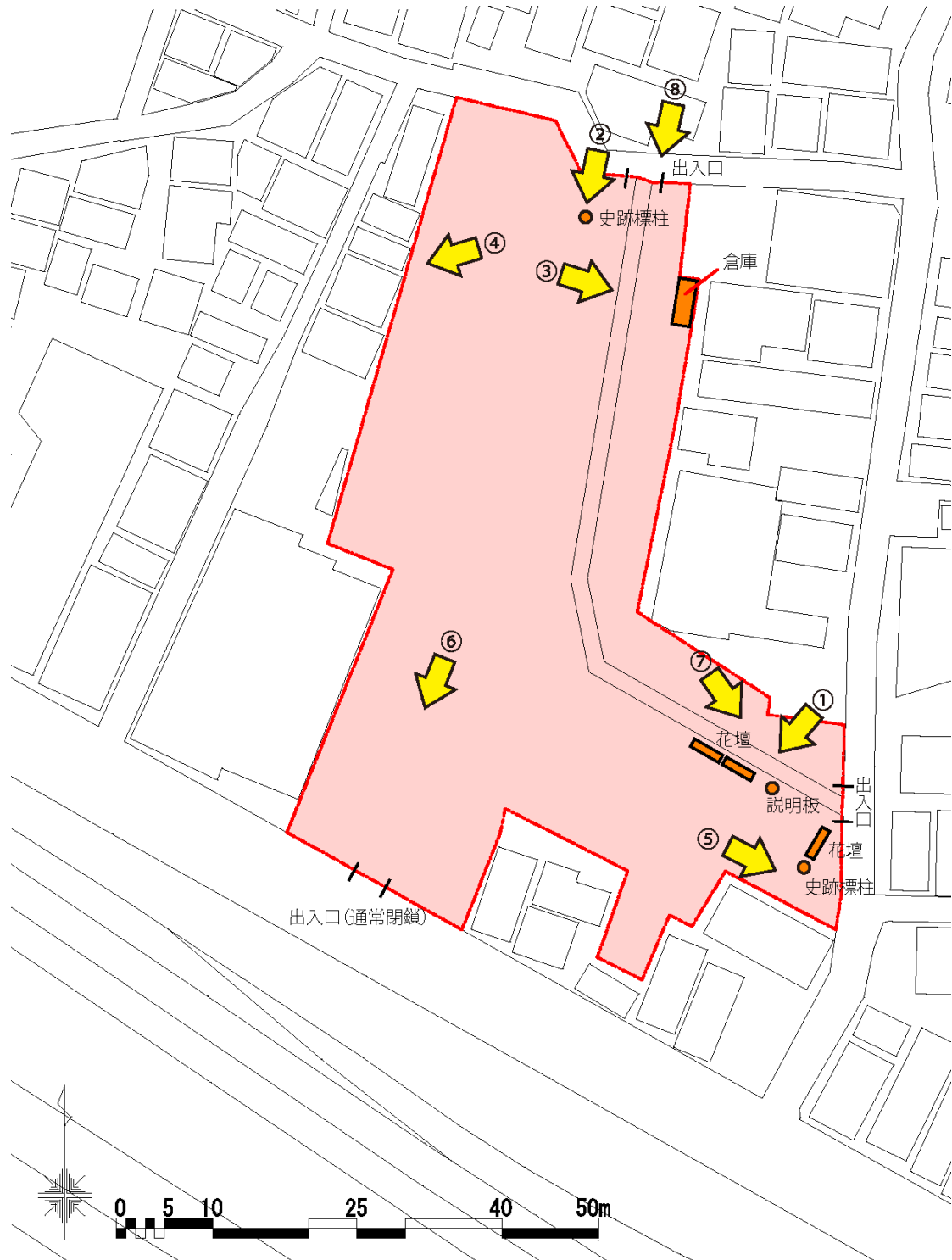


図 中里貝塚史跡広場写真位置図



① 史跡の説明板



② 史跡標柱



③ 倉庫



④ 周辺住宅地



⑤ 周辺住宅地



⑥ 広場



⑦ 花壇



⑧ 金網柵

② 上中里2丁目広場

本広場は、2箇所に分かれた指定地の東側に相当する。敷地は、区道をはさんで南北に分かれるが、両所合わせた広さは2,177.45㎡である。

広場は金網柵や防球ネットで囲われており、周囲には住宅とJR尾久操車場および関連施設がある。

広場に入る入り口は、区道に面した位置にそれぞれ1箇所、および北側広場の東側に南北各2箇所の計6箇所ある。夜間は施錠している（最も北寄りの1箇所を除く、東側の3箇所は常時閉鎖）。広場内は北側のみダスト舗装されており、史跡標柱各1箇所、南側に公衆トイレ、水飲みがある。説明板は、金網柵沿いに2箇所設置されている。広場の維持管理は、北区役所道路公園課が行っている。

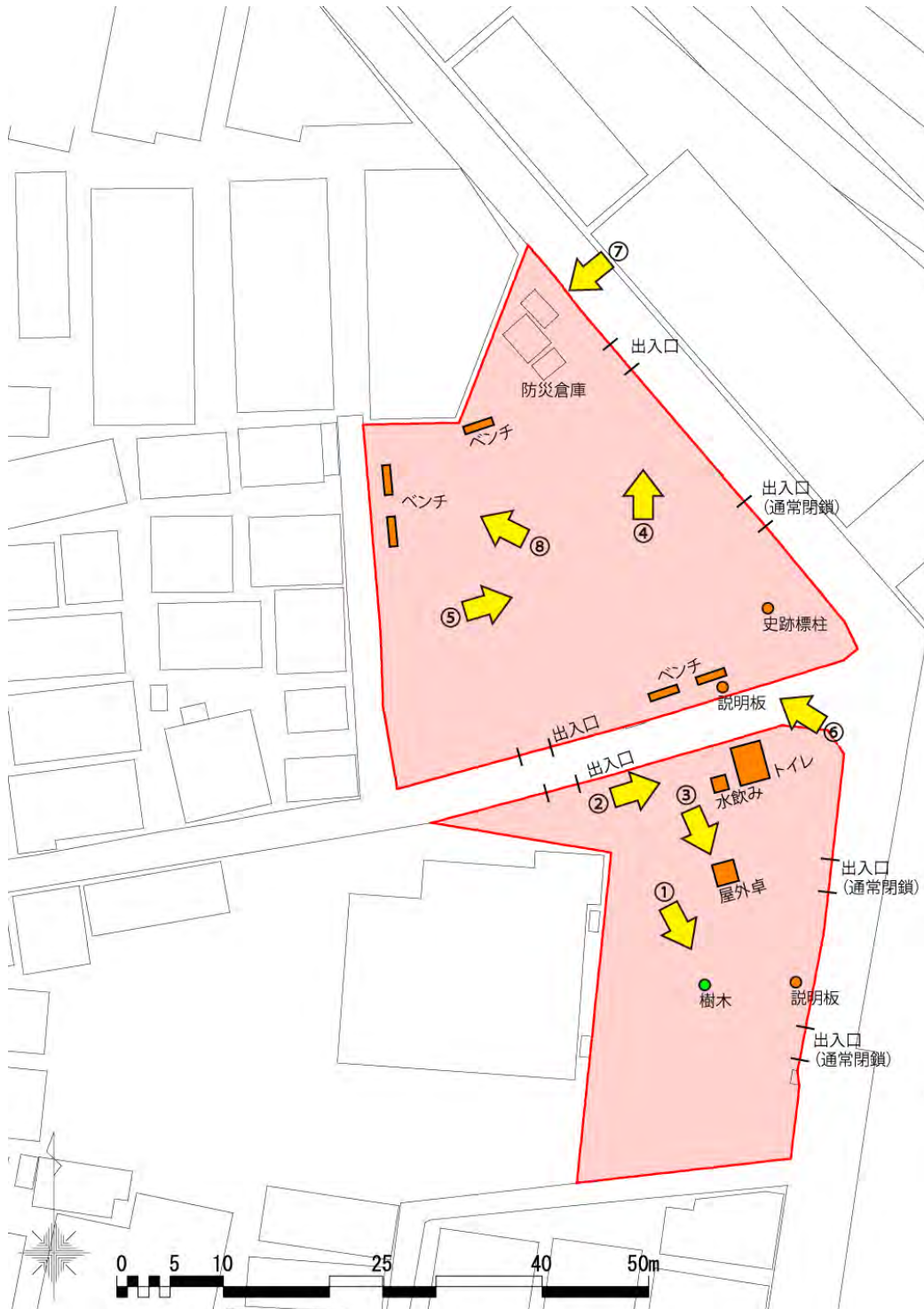


図 上中里2丁目広場写真位置図



① 既存樹木



② 公衆トイレ、水飲み



③ 屋外卓、樹木



④ 金網柵、防球ネット



⑤ 広場



⑥ 説明板、時計



⑦ 防災倉庫



⑧ 隣接する住宅

③ 史跡指定地へのアクセス環境

史跡指定地は、JRの線路群に挟まれる位置に立地する。そのことからJR線からのアクセスが良く、3駅が徒歩圏内にある。したがって遠隔地からの来訪者の多くは、JR最寄り駅から徒歩で訪れている。

最も近いのが尾久駅で、尾久操車場の構内を横断する地下通路「タイムカプセル平成ロード」を通ると、徒歩5分でアクセス可能である。また京浜東北線の線路沿いに、上中里駅からは徒歩10分、田端駅からは徒歩15分でアクセスすることができる。

ただし最寄り駅からの徒歩を除くと、史跡指定地へのアクセスは極めて難しい状況にある。史跡指定地直近において、路線バス等公共交通機関の停留所はなく、史跡指定地に付属した駐車場・駐輪場もない。やや離れた位置に、わずかな台数の乗用車が止められる程度の有料駐車場があるのみである。

また2つの史跡指定地は100mほど離れた場所に立地する。そのため両指定地間の移動手段も徒歩となるが、中里貝塚史跡広場→上中里2丁目広場の場合、来訪者の多くがJR線線路沿いの比較的広い区道を経由するルートをとっているのに対して、上中里2丁目広場→中里貝塚史跡広場の場合には、南北にわかれた上中里2丁目広場の間を通る区道を通り、移動する状況がしばしばみられる。なお本道は幅員が狭く、住宅の間を通る、いわゆる生活道路である。

そして現在の調査研究拠点である北区飛鳥山博物館から史跡指定地までは、1.5～1.6kmほどの距離にある。その間の移動は、徒歩にて約20分もしくは、一部JR（京浜東北線／王子駅～上中里駅）や都営バス（草64系統／飛鳥山停留所～尾久駅前停留所）を利用して史跡指定地最寄り駅まで移動し、各最寄り駅からは徒歩にて史跡指定地に向かうというものである。

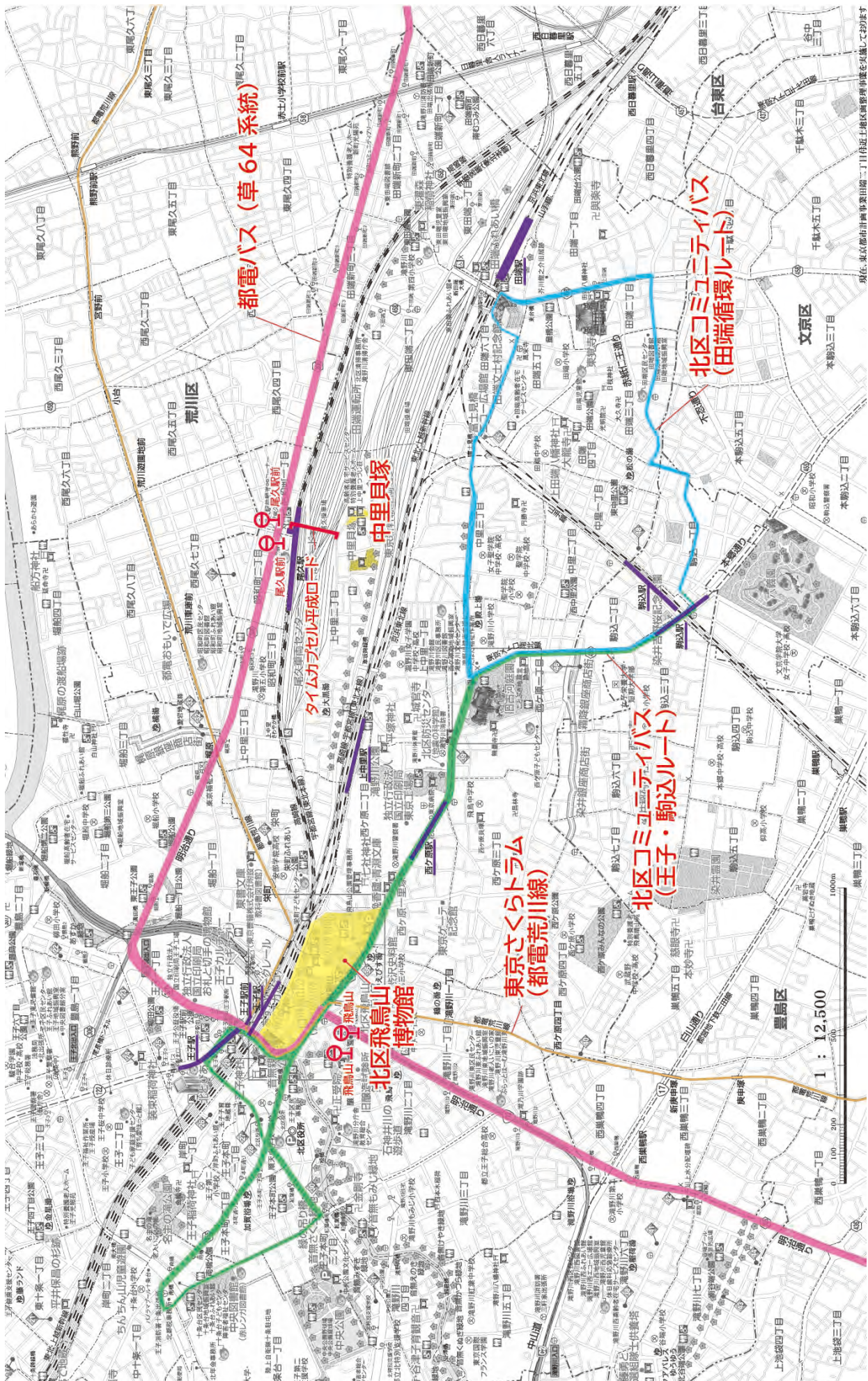
なお史跡指定地の所在地については、北区飛鳥山博物館ホームページや文化財ガイドブック『北区のたからばこ』（北区飛鳥山博物館刊行）や、『北区観光ガイドブック』（北区産業振興課発行）にて周知を行っている。しかし最寄り駅から史跡指定地に至るまでの行程上において、史跡指定地の所在地やルートを示すような案内板・説明板等はない。



図 『北区のたからばこ』
(北区飛鳥山博物館刊行)



図 『北区観光ガイドブック』(北区産業振興課発行)



現在、北區都市計画事業田端二丁目付近に地区調整理事業を実施しております

図 計画対象地周辺のアクセスルート図

(2) 史跡指定地周辺の公共施設等

中里貝塚の周辺には、複数の公共施設等が点在する。JR 尾久駅近くには、昭和町区民センター・昭和町ふれあい館・昭和町図書館（複合施設）がある。また北区立堀船中学校・堀船小学校・滝野川第五小学校があり、これらの3校は「堀船中サブファミリー」として、さまざまな連携・交流活動を行っている。

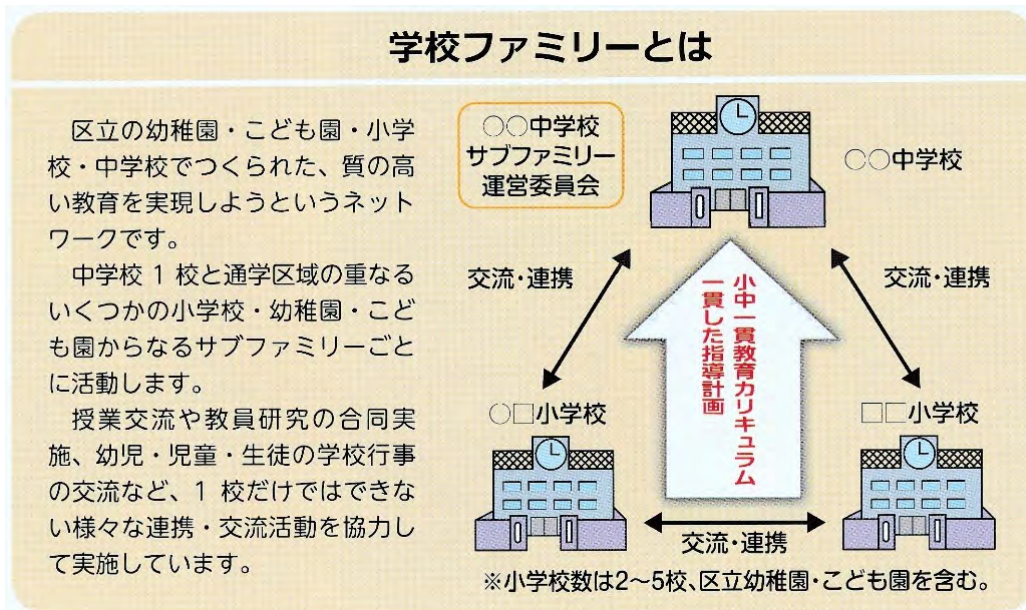


図 学校ファミリーについて

(3) 計画地周辺の文化財

計画地周辺の滝野川西地区・滝野川東地区（北区飛鳥山博物館が所在する飛鳥山公園は王子東地区）は、北区内でも文化財が密集する地域である。特に滝野川西地区の武蔵野台地縁辺部には、指定文化財が多く所在する。

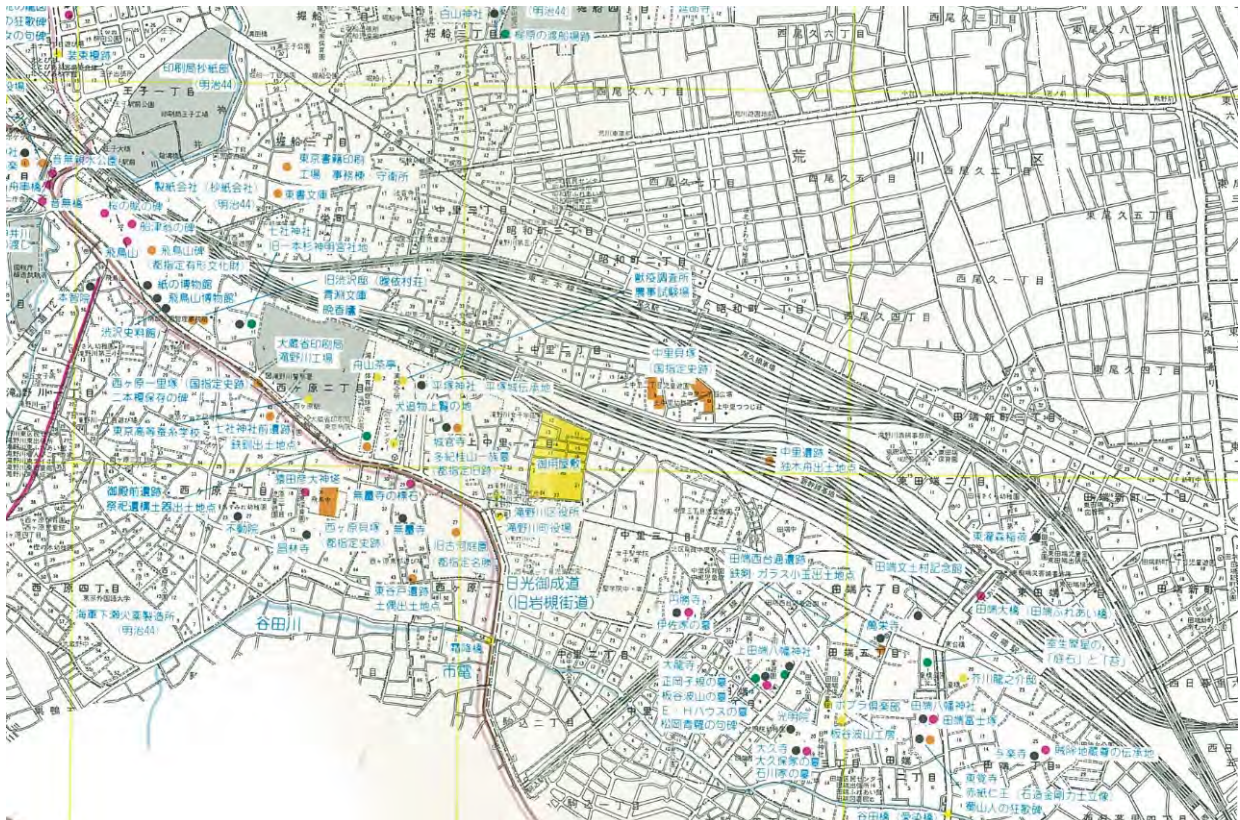


図 計画地周辺の文化財 ※現在作成中（次回差し替え予定）

指定文化財

王子東地区

- 北区立飛鳥山公園／旧渋沢家飛鳥山邸（青淵文庫・晩香廬）〔国重要文化財（建造物）〕
飛鳥山碑〔都有形文化財（古文書）〕

滝野川西地区

- 旧醸造試験所第一工場〔国重要文化財（建造物）〕
- 西ヶ原一里塚〔国史跡〕
- 七社神社前遺跡／七社神社前遺跡出土鉄釧〔区有形文化財（考古資料）〕
七社神社前遺跡土坑群出土資料〔区有形文化財（考古資料）〕
- 西ヶ原貝塚〔都史跡〕
- 東谷戸遺跡／東谷戸遺跡出土土偶〔区有形文化財（考古資料）〕
- 御殿前遺跡〔区史跡〕
御殿前遺跡祭祀遺構出土土器〔区有形文化財（考古資料）〕
- 平塚神社／紙本著色平塚明神并別当城官寺縁起絵巻〔区有形文化財（歴史資料）〕
平塚神社文書〔区有形文化財（古文書）〕
- 城官寺／多紀家墓所 附 金安氏墓 5 基（旧多紀桂山一族墓）〔都史跡〕
山川城官一族墓碑 附 山川家墓碑・記念碑〔区有形文化財（歴史資料）〕
- 旧古河氏庭園〔国名勝〕
- 田端八幡神社／田端富士三峰講祭祀具 附 関係文書〔区有形民俗文化財〕
- 田端西台通遺跡／田端西台通遺跡出土鉄剣およびガラス小玉〔区有形文化財（考古資料）〕
- 東覚寺／赤紙仁王（石造金剛力士立像）〔区有形民俗文化財〕

滝野川東地区

- 東京書籍印刷／近代教科書関係資料〔国重要文化財（歴史資料）〕
東京書籍株式会社附設教科書図書館東書文庫 附 建築工事記録他 35 ミリフィルム〔区有形文化財（建造物）〕
- 中里遺跡／中里遺跡出土丸木舟〔都有形文化財（考古資料）〕
中里遺跡出土土器〔区有形文化財（考古資料）〕



飛鳥山碑



西ヶ原一里塚



西ヶ原貝塚



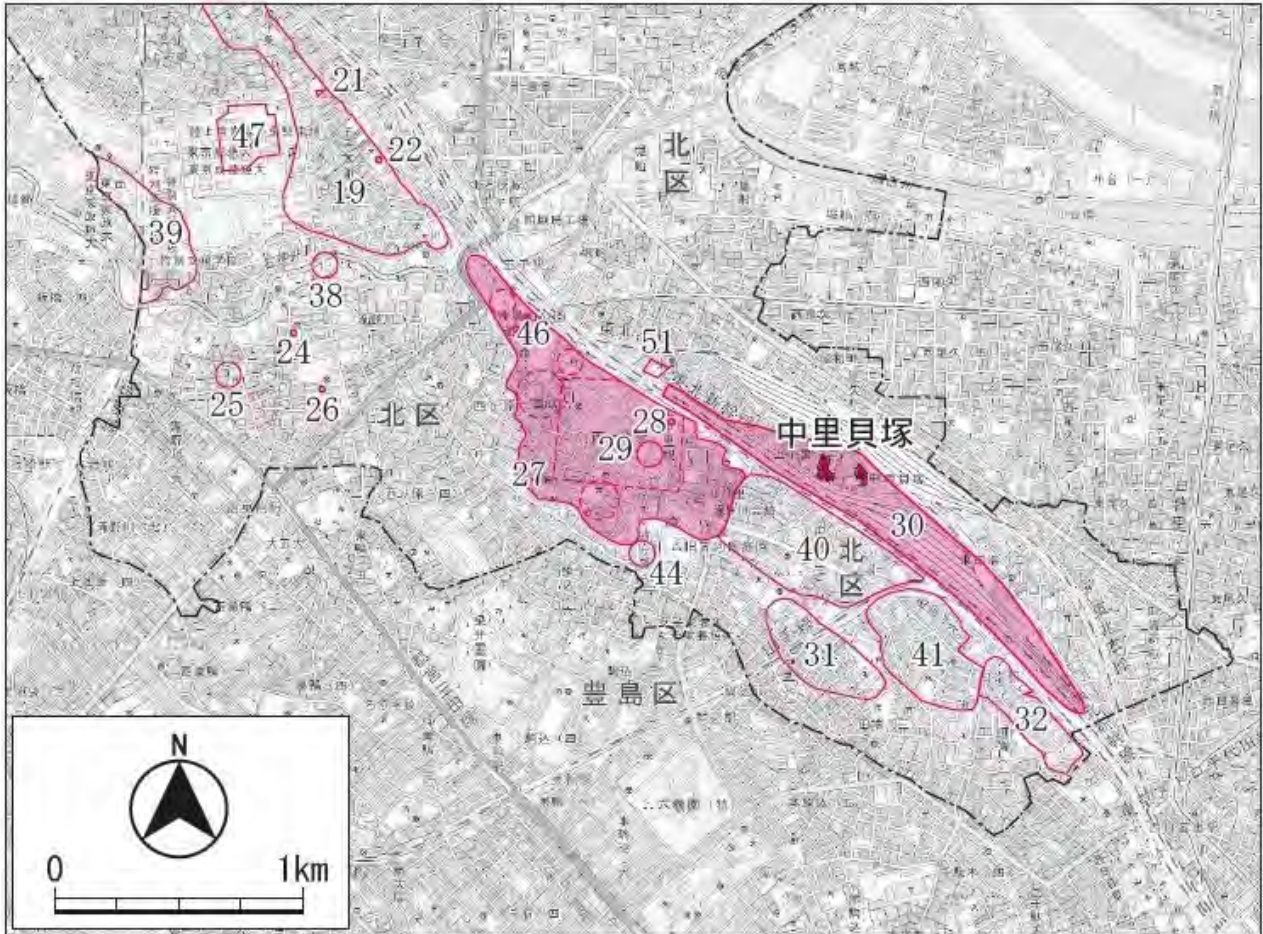
御殿前遺跡

3. 法規制

(1) 文化財保護法（史跡指定地、周知の埋蔵文化財包蔵地）

【担当窓口：北区教育委員会事務局教育振興部飛鳥山博物館】

中里貝塚は平成12年（2000）9月6日に国史跡に指定され、平成24年（2012）9月19日に西側の一部が追加指定されている。指定地内は、文化財保護法125条において「その現状を変更し、またはその保存に影響を及ぼす行為をしようとするときは、文化庁長官の許可を受けなければならない」と定められている。また、指定地周辺は文化財保護法における周知の埋蔵文化財包蔵地（中里遺跡）となっており、開発行為等により土地の掘削を行う場合には、事前の通知・届出が義務づけられている。



包蔵地・遺跡名称

30 中里遺跡	19 十条台遺跡群	32 田端不動坂遺跡
27 西ヶ原遺跡群	21 十条台小学校横穴墓	38 滝野川城跡
— 西ヶ原貝塚	22 王子稲荷裏古墳	39 下十条遺跡
— 御殿前遺跡	24 四本木稲荷古墳	40 中里峡上遺跡
— 七社神社前遺跡	25 滝野川八幡社裏貝塚	41 田端西台通遺跡
— 七社神社裏遺跡	26 滝野川古墳	44 東谷戸遺跡
— 飛鳥山遺跡	28 甲冑塚古墳	46 飛鳥山古墳群
	29 武蔵国豊島郡衙跡	47 十条久保遺跡
	31 田端町遺跡	51 栄町貝塚

※数字は、北区の遺跡番号

図 中里貝塚周辺の埋蔵文化財包蔵地

(2) 都市計画法（用途地域、用途制限など）

【担当窓口：北区まちづくり部都市計画課】

北区は「東京都市計画区域」にあり、荒川・隅田川・新河岸川が市街化調整区域となっている以外は、全て市街化区域となっている。

史跡指定地周辺の用途地域は、準工業地域に指定されている。この地域には、住宅や中小工場が混在する。危険性が大きいか又は著しく環境を悪化させるおそれがある工場などは建てられない地域となっている。

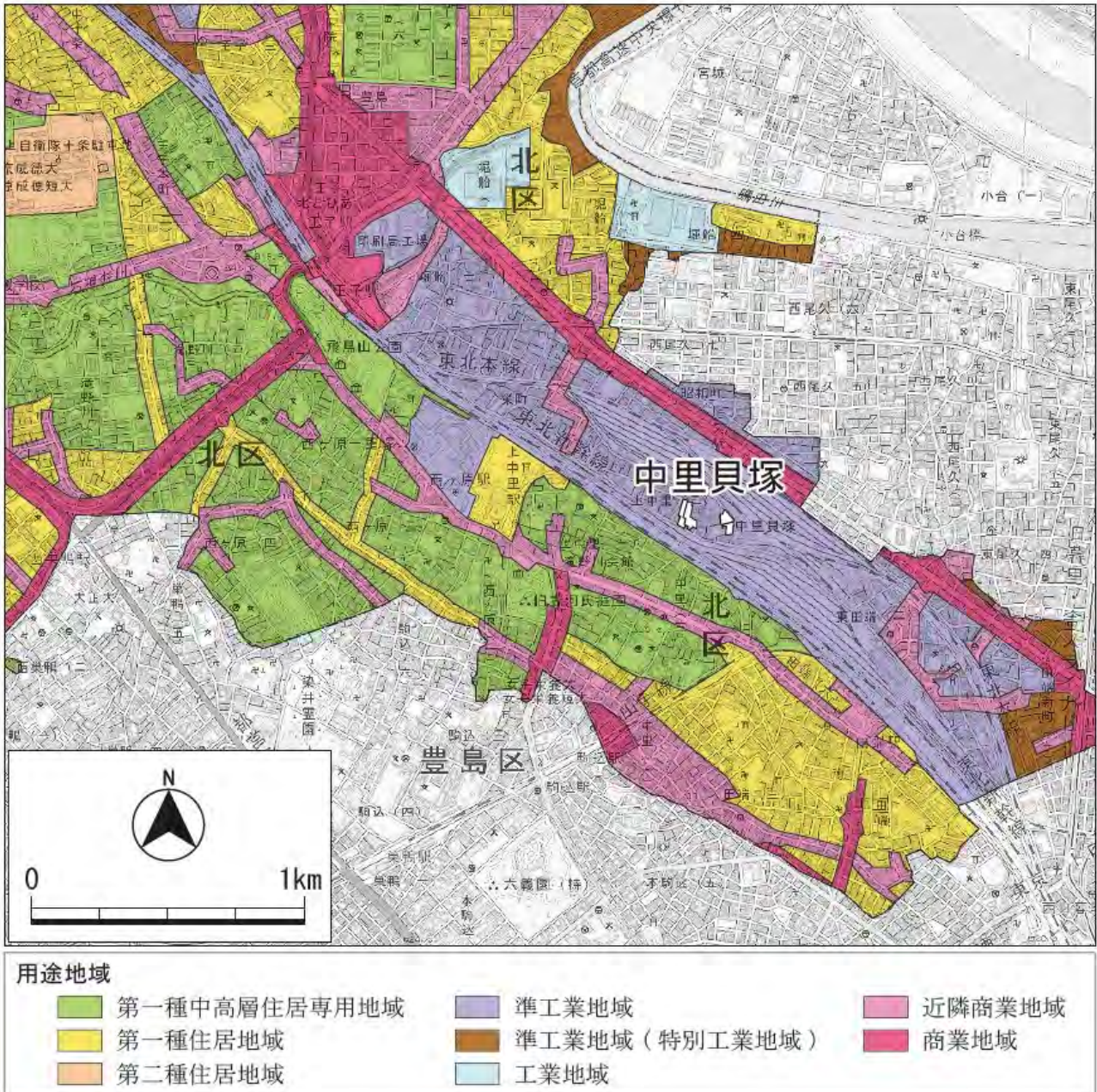


図 中里貝塚周辺の用途地域

用途地域内の建築物用途制限

		第一種低層住居専用地域	第一種中高層住居専用地域	第二種中高層住居専用地域	第一種住居地域	第二種住居地域	近隣商業地域	商業地域	準工業地域	工業地域	備考
<input type="checkbox"/> 建てられる用途 <input type="checkbox"/> 建てられない用途 ①、②、③、▲面積は、階数等の制限あり（備考欄を参照）											
住宅、共同住宅、寄宿舎、下宿		○	○	○	○	○	○	○	○	○	
兼用住宅で、非住宅部分の床面積が50㎡以下で、建築物の延べ面積の2分の1未満のもの		○	○	○	○	○	○	○	○	○	非住宅部分の用途制限あり
店舗等	店舗等の床面積が150㎡以下のもの		②	③	○	○	○	○	○	○	①日用品販売店舗、喫茶店、理髪店、建具屋等のサービス業用店舗のみ。2階以下。 ②①に加えて、物品販売店舗、飲食店、損保代理店、銀行の支店、宅地建物取引業等のサービス業用店舗のみ。2階以下。 ③2階以下。
	店舗等の床面積が150㎡を超え、500㎡以下のもの		②	③	○	○	○	○	○	○	
	店舗等の床面積が500㎡を超え、1,500㎡以下のもの			③	○	○	○	○	○	○	
	店舗等の床面積が1,500㎡を超え、3,000㎡以下のもの				○	○	○	○	○	○	
	店舗等の床面積が3,000㎡を超え、10,000㎡以下のもの				○	○	○	○	○	○	
事務所等	店舗等の床面積が10,000㎡を超えるもの				○	○	○	○	○	○	
	事務所等の床面積が150㎡以下のもの			▲	○	○	○	○	○	○	▲2階以下
	事務所等の床面積が150㎡を超え、500㎡以下のもの			▲	○	○	○	○	○	○	
	事務所等の床面積が500㎡を超え、1,500㎡以下のもの			▲	○	○	○	○	○	○	
事務所等の床面積が1,500㎡を超え、3,000㎡以下のもの				○	○	○	○	○	○		
事務所等	事務所等の床面積が3,000㎡を超えるもの				○	○	○	○	○	○	
	事務所等の床面積が3,000㎡を超えるもの				○	○	○	○	○	○	
ホテル、旅館					▲	○	○	○	○	○	▲3,000㎡以下
体育館、テニス練習場			①	②	○	○	○	○	○	○	①2階以下かつ1,500㎡以下 ②3,000㎡以下
遊戯・風俗施設	ボーリング場、スケート場、水泳場、ゴルフ練習場、バッティング練習場等				▲	○	○	○	○	○	▲3,000㎡以下
	カラオケボックス等					▲	○	○	○	▲	▲10,000㎡以下
	麻雀屋、パチンコ屋、射的場、馬券・車券発売所等					▲	○	○	○	▲	▲10,000㎡以下
	劇場、映画館、演芸場、観覧場						○	○	○		
キャバレー等、料理屋、個室付浴場等							○	▲			▲個室付浴場等を除く
公共施設・病院・学校等	幼稚園、小学校、中学校、高等学校	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	大学、高等専門学校、専修学校等		○	○	○	○	○	○	○	○	
	図書館、公民館、考古資料館	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	博物館、美術館、水族館、植物園			①	②	○	○	○	○	○	①2階以下かつ1,500㎡以下 ②3,000㎡以下
	巡査派出所、公衆電話所	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	郵便の業務（郵便窓口業務を含む。）の用に供する施設	①	②	○	○	○	○	○	○	○	①500㎡以下 ②4階以下
	神社、寺院、教会等	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	病院、老人保健施設（20床以上）		○	○	○	○	○	○	○	○	
	公衆浴場、診療所、老人保健施設（19床以下）、保育所等	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	老人ホーム、身体障害者福祉ホーム等	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
老人福祉センター、児童厚生施設等	▲	○	○	○	○	○	○	○	○	▲600㎡以下	
自動車教習所				▲	○	○	○	○	○	▲3,000㎡以下	
単独車庫（附属車庫を除く）		▲	▲	▲	▲	○	○	○	○	▲300㎡以下2階以下	
建築物附属自動車車庫 ①②③については、建築物の延べ面積の1/2以下で、備考欄に記載の制限	①	②	②	③	③	○	○	○	○	①600㎡以下1階以下 ②3,000㎡以下2階以下 ③2階以下	
自己用倉庫			①	②	○	○	○	○	○	①2階以下かつ1,500㎡以下 ②3,000㎡以下	
倉庫業倉庫						○	○	○	○		
畜舎（15㎡を超えるもの）				▲	○	○	○	○	○	▲3,000㎡以下	
パン屋、米屋、豆腐屋、菓子屋、洋服屋、畳屋、建具屋、自転車店等で作業場の床面積が50㎡以下		▲	▲	○	○	○	○	○	○	原動機の制限あり ▲2階以下	
危険性や環境を悪化させるおそれが非常に少ない工場				①	①	②	②	○	○	原動機・作業内容の制限あり	
危険性や環境を悪化させるおそれが少ない工場						②	②	○	○	作業場の床面積	
危険性や環境を悪化させるおそれがやや多い工場								○	○	①50㎡以下②150㎡以下	
危険性や環境を悪化させるおそれがある工場									○		
自動車修理工場				①	①	②	②	○	○	作業場の床面積 ①50㎡以下 ②300㎡以下 原動機の制限あり	
火薬、石油類、ガスなどの危険物の貯蔵・処理の量	量が非常に少ない施設			①	②	○	○	○	○	○	①1,500㎡以下 2階以下 ②3,000㎡以下
	量が少ない施設							○	○	○	
	量がやや多い施設								○	○	
	量が多い施設									○	
卸売市場、火葬場、と畜場、汚物処理場、ごみ焼却場等		都市計画区域内においては都市計画決定が必要									

※本表は、建築基準法別表第2の概要であり、すべての制限について記載したものではありません。

(3) 災害対策基本法（避難場所、避難所など）

【担当窓口：北区危機管理室防災・危機管理課】

災害対策基本法とは、「国民の生命、身体及び財産を災害から保護し、もって、社会の秩序の維持と公共の福祉の確保に資することを目的」とした法律である。北区は平成30年（2018）に改訂版の『東京都北区地域防災計画（震災対策編・風水害対策編）』を策定している。

避難場所とは、地震火災から住民の生命を守るため、火災が鎮火するまで待つ場所であり、東京都震災対策条例に基づき昭和47年（1972）から東京都が指定している。平成30年（2018）6月に第8回の指定見直しを行い、北区内の避難場所は21か所となっている。

史跡指定地周辺の避難場所としては、「JR田端・尾久駅周辺一帯」が指定されているが、操車場のため、通常は立ち入ることができないことから、災害時に近隣住民が速やかに避難できる状況とはなっていない。

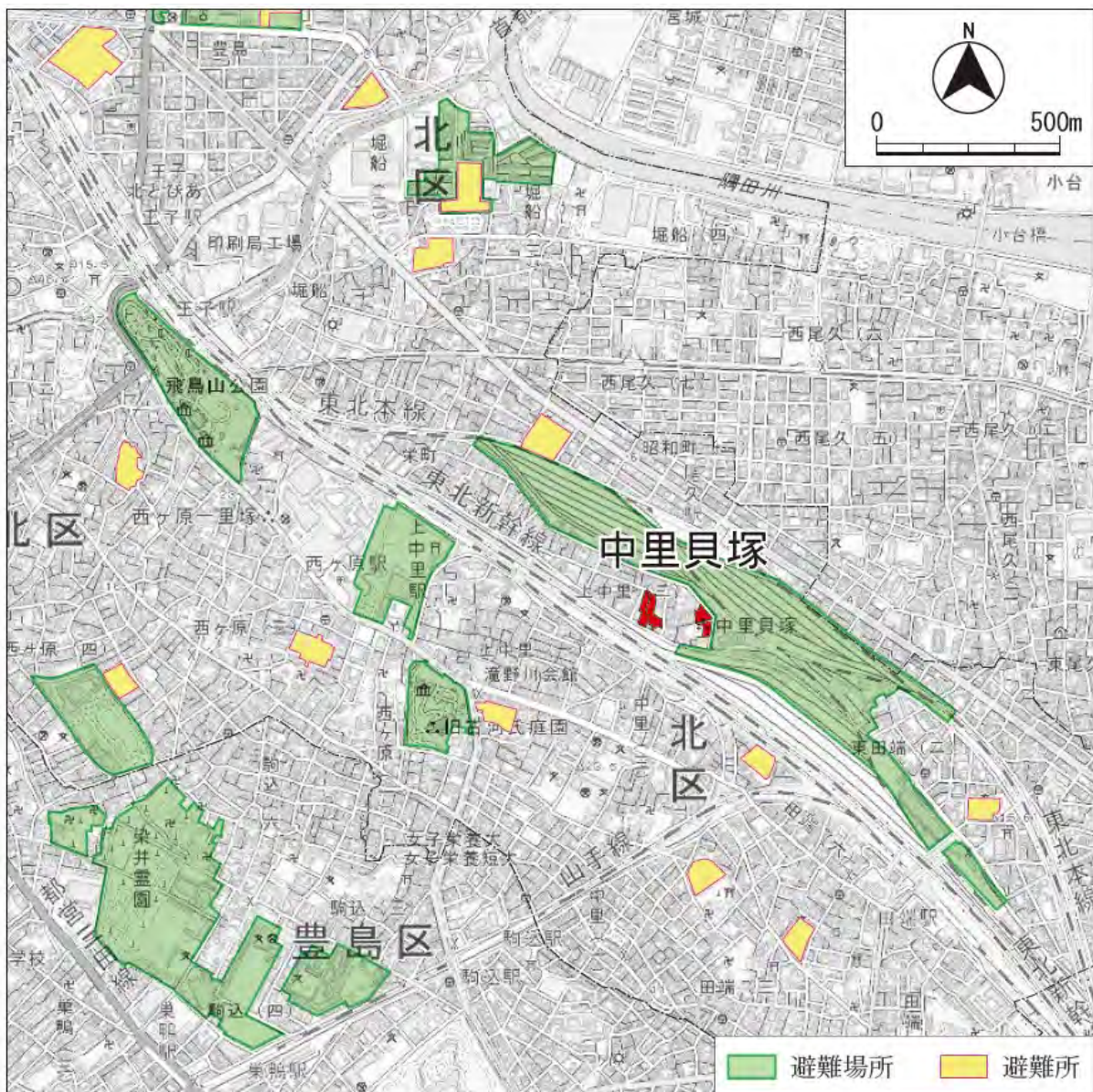


図 中里貝塚周辺の避難場所及び避難所

(4) 東京都屋外広告物条例

【担当窓口：北区土木部施設管理課】

東京都屋外広告物条例では、屋外広告物等を出す（＝屋外広告物を表示し、又は屋外広告物を掲出する物件を設置する）ことを禁止する必要がある地域や場所を禁止区域（条例第6条）として定めているとともに、街路樹やガードレールなどの屋外広告物を出せない禁止物件（条例第7条）として定めている。また、知事の許可を受けることによって屋外広告物を出せる地域や場所を許可区域（条例第8条）として定めている。

中里貝塚史跡広場は、「公共団体の管理する公園」に該当する。禁止区域、禁止物件及び許可区域の概要は、以下の通りである。

区分	禁止区域・禁止物件	主な適用除外広告物	
	禁止されている地域・場所の例	許可を受けて出せる広告物	許可が不要な広告物
禁止区域	<ul style="list-style-type: none"> ○第1種・第2種低層住居専用地域 ○第1種・第2種中高層住居専用地域 ○田園住居地域 ○特別緑地保全地区 ○景観地区のうち知事が指定する区域 ○旧美観地区*、風致地区 (知事の指定により出せる場所あり) ○保安林 ○文化財保護法の建造物及びその周囲 ○歴史的又は都市美的建造物及びその周囲、文化財庭園等の周囲 ○墓地、火葬場、葬儀場、社寺、教会 ○国、公共団体の管理する公園、緑地、運動場、動物園、植物園、河川、堤防敷地、橋台敷地 ○国立公園・国定公園・都立自然公園の特別地域 ○学校、病院、公会堂、図書館、博物館、美術館、官公署等の敷地 ○道路、鉄道及び軌道の路線用地及びそれに接続する地域で、知事の定める地域（4ページ及び5ページ参照） ○前記に掲げるもののほか、別に知事が定める地域 	<ul style="list-style-type: none"> ○自家用広告物で条件に合うもの（次ページ参照） ○道標・案内図板等の広告物で、公共的目的をもって表示するもの ○電柱等を利用し公衆の利便等の用に供するもの ○知事が指定した専ら歩行者の一般交通に供する道路に表示するもの ○規則で定める公益上必要な施設又は物件に表示するもの 	<ul style="list-style-type: none"> ○自家用広告物で条件に合うもの（次ページ参照） ○他の法令の規定により表示するもの等 ○国又は公共団体が公共的目的をもって表示するもの ○公益を目的とした集会や催し物等のために表示するはり紙、はり札等、広告旗、立看板等、広告幕及びアドバルーン ○自己の管理する土地等に管理上必要な事項を表示するもの ○冠婚葬祭や祭礼のためのもの
	禁止物件	<ul style="list-style-type: none"> ○橋、高架道路、高架鉄道及び軌道 ○道路標識、信号機、ガードレール、街路樹 ○郵便ポスト、公衆電話ボックス、送電塔、テレビ塔、照明塔、ガスタンク、水道タンク、煙突、無線塔、吸排気塔、形像、記念碑 ○石垣、がけ、土手、堤防、擁壁 ○景観重要建造物、景観重要樹木 ○その他知事の指定物件（パーキングメーター等） <p>はり紙、はり札等、広告旗又は立看板等のみが禁止されている物件</p> <ul style="list-style-type: none"> ○電柱、街路灯柱、消火栓標識 ○アーチ・アーケードの支柱 	許可を受けて出せる広告物

※景観法の施行に伴う関係法律の整備等に関する法律第1条の規定による改正前の都市計画法第8条の規定により定められた美観地区をいう（以下同じ。）。

表 (『屋外広告物のしおり』p.2を改変)

(5) 景観法

【担当窓口：まちづくり部都市計画課】

景観計画では、北区全域が景観計画区域となっており、景観に関する方針や景観形成基準と特定地区の景観まちづくりの目標及び良好な景観づくりに関する方針や景観形成基準を設けている。

中里貝塚史跡広場、上中里2丁目広場は、一般地区となっており、北区飛鳥山博物館は景観形成方針地区となっている。

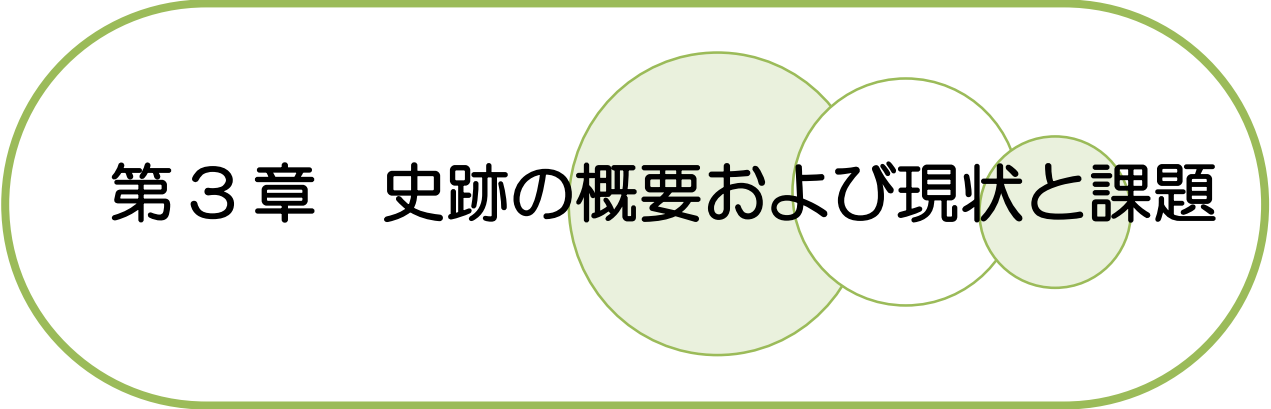
対象の行為、規模の場合は、景観形成基準に準じたものとし、事前の届け出が必要となる。

届出対象地区	届出対象行為・届出対象規模
2. 景観形成重点地区	
・中央公園周辺地区 (上十条一丁目、中十条一丁目、王子本町二丁目、王子本町三丁目及び十条台一丁目各内地内)	建築物 <届出行為> ・大規模な建築物の新築、増築、改築若しくは移転、外観を変更することとなる修繕若しくは模様替又は色彩の変更(景観計画の基準に適合していない塗替を含む) <届出規模> ・建築物の高さが15m以上又は延べ面積が800㎡以上
	工作物 <届出行為> ・工作物の新設、増築、改築若しくは移転、外観を変更することとなる修繕若しくは模様替又は色彩の変更(景観計画の基準に適合していない塗替を含む) <届出規模> ・建築基準法第88条に規定する工作物(確認申請が必要な工作物)及び北区条例規則で定める工作物(北区景観づくり計画P.103参照)
	開発行為 <届出行為> ・都市計画法第4条第12項に規定する開発行為 <届出規模> ・開発区域面積が500㎡以上
3. 景観形成方針地区	
・飛鳥山公園周辺地区 ・石神井川沿川地区 ・崖線沿線地区 ・都電沿線地区 ・荒川沿川地区	一般地区又は景観形成重点地区の届出対象行為・届出対象規模を適用します。

表 届出対象行為・規模



図 景観計画区域の指定



第3章 史跡の概要および現状と課題

第3章 史跡の概要および現状と課題

3-1 史跡の概要

1. 史跡指定地

(1) 指定範囲・面積

■指定名称：史跡中里貝塚

■指定年月日（官報告示）：平成 12 年9月6日

平成 24 年9月 19日 追加指定

■所在地：東京都北区上中里二丁目

(2-19, 2-20, 4-25, 8-3, 8-14, 9-13, 9-14, 8-4, 8-5, 9-3, 9-17)

■指定面積：6,248.49 m²

■指定理由：

最大で厚さ 4.5 メートル以上の貝層が広がる、縄文時代の海浜低地に営まれた巨大な貝塚。焼石を投入して水を沸騰させて貝のむき身を取ったと考えられる土坑や焚き火跡、木道などが確認されている。生産された大量の干し貝は、内陸へ供給されたものと想定され、縄文時代の生産、社会的分業、社会の仕組みを考える上で重要である。



図 史跡指定地の地番図

(2) 指定説明文

① 平成12年7月1日発行『月刊文化財 七月号』

中里貝塚

東京都北区上中里二丁目

中里貝塚は、武蔵野台地下、旧東京湾奥部の西側の浜辺に営まれた縄文時代の貝塚である。付近の武蔵野台地上には同じ縄文時代中期の西ヶ原貝塚や御殿前遺跡がある。

中里における貝塚の存在は早くから知られ、大森貝塚の発掘から九年後の明治十九年には白井光太郎によって「中里村介塚」として学界に初めて報告された。その後、明治二十九年には鳥居龍蔵らが、貝塚を見渡したスケッチを残している。このように明治年間から学界に報告され注目された貝塚であったが、その後、鉄道敷設や宅地化でしだいにその存在も忘れられていった。

昭和三十三年に和島誠一による調査が行われ、厚さ二メートル以上に及びハマグリとマガキからなる貝層が確かめられた。昭和五十八・五十九年に周辺で行われた調査でも、当時の浜辺からムクノキ製の丸木船一艘と集石炉二基が出土した。公園建設に伴って北区教育委員会が行った平成八年の発掘調査では、厚さ四メートルの大規模な貝層と貝の処理施設と考えられる二基の浅い皿状の土坑が検出された。この土坑は一・六×一・三メートルと〇・六×〇・五メートルの大きさで、いずれも内壁に粘土を貼り、枠取りをするように枝を縁に巡らしている。土坑内からは大小の焼石やマガキのブロックが出土したことから、土坑中に貝を置いて水を張り、焼石を投入して水を沸騰させ、貝の口を開けた処理施設であったと推測された。こうした施設を用いて集中的に貝を加工した結果、膨大な量の貝が堆積したことも想定された。また、出土土器から貝層の形成は縄文時代中期中葉から後期初頭であること、貝層中には焼き火跡と判断される木炭層や灰層があることも確認された。さらに、平成十一年にも、マンション建設に先立って、北区教育委員会が平成八年の調査地点の西一〇メートルの地点を発掘調査し、厚さ二メートル以上の貝層下の波食台に敷かれた長さ六・二メートル以上の木道と、それに続く長径三・二メートル、短径一・七メートル、深さ〇・五メートルの土坑を確認した。なお、平成八年、十一年の両調査地点とも保存が図られている。

このように中里貝塚は、集落から離れた浜辺で付近の集落に暮らした人びとが協業して貝加工を行った結果残された、南北一〇〇メートル以上、東西五〇〇メートル以上の範囲に最大で厚さ四・五メートル以上の貝層が広がる、巨大な貝塚である。そして、縄文時代に自給自足的な範囲を越えて内陸の他の集落へ供給することを目的とした貝の加工処理があったことを各種の遺構で具体的に伝える重要な遺跡でもある。よって史跡に指定し保護を図るものである。

② 平成24年9月1日発行『月刊文化財 九月号』

中里貝塚

東京都北区

中里貝塚は、旧東京湾奥部の西側、標高三メートルの浜辺に立地する縄文時代中期後半の貝塚である。その存在は明治初期から学界で広く知られ、東西五〇〇メートル、南北一〇〇メートル、最大厚四・五メートルの貝層は、国内最大級の規模を有する。

この分厚い貝層は、ハマグリとマガキの純貝層によって形成されることや、周辺に居住域が未確認であったことから、かつては自然貝層とする見解もあった。しかし、昭和五十八年以降の北区教育委員会による数度にわたる発掘調査により、少量ながら加曽利E式土器が出土すること、浅い土坑から出土する焼け石やマガキから煮沸等による貝の加工が想定されること、貝層中から焼土・木炭・灰がブロック状に包含されること等から、貝の加工を集中的に行った結果として貝層が分厚く堆積したことが明らかになった。また、貝塚に近接した低地からは、ほぼ完全な形の丸木舟が出土し、旧東京湾における海上活動の一端も明らかになった。このように、中里貝塚はその規模もさることながら、居住域に近接し生活残滓の廃棄によって形成された通常の貝塚とは異なり、貝の加工場として生業実態を知ることのできる数少ない貝塚であることから、平成十二年に史跡に指定された。

今回、既指定地の西側隣接地において発掘調査を実施したところ貝層の西端部が確認された。また、貝層の上部に縄文時代晩期の泥炭層が確認されたことで、海退による陸化の状況も具体的に明らかになった。よって、この部分を追加指定し、保護の万全を図ろうとするものである。

(3) 土地所有状況・公有化の経緯

約 62,000 m²に及びとみられる貝層の分布範囲のうち、その約 1/10 にあたる 6,248.49 m²が、現在史跡に指定されている。東西2箇所に分かれる史跡指定地は、いずれも公有地である。

東側指定地は、北区が公園用地として土地を取得し、史跡指定前には公有地となっていたものである。また西側指定地は、マンション建設に伴う事前調査中に史跡指定ならびに土地買上げの方針が決まり、公有地化が図られたものである。なお追加指定地については、平成 23 年（2011）に西側指定地の隣接地にて、工場跡地におけるマンション建設計画を契機として行われた範囲確認調査で、2mを超す良好な貝層の遺存が確認されたことを受け、指定後に公有地化したものである。

	中里遺跡 (中里貝塚)	中里貝塚 (史跡指定地) / 合計面積: 6,248.49 m ²		
		A地点	B地点	J地点
		2,177.45 m ² 2-19, 2-20, 4-25	2,256.25 m ² 8-3, 8-14, 9-13, 9-14	1,814.79 m ² 8-4, 8-5, 9-3, 9-17
明治 19 年 (1886)	白井光太郎が「中里村介塚」として『人類学会報告』に初めて報告			
明治 27 年頃 (1894 頃)	鳥居龍蔵・佐藤傳蔵の調査			
昭和 33 年 (1958)	和島誠一のトレンチ調査	(和島トレンチ)		
昭和 57 年 (1982)	東北新幹線事業に伴う試掘調査を実施 (中里遺跡)			
昭和 58 年 (1983)	“東北新幹線中里遺跡調査会”・“中里遺跡調査団” 設立、本調査を実施			
昭和 59 年 (1984)	東北新幹線事業に伴う本調査が終了 (中里遺跡)			
平成 2 年 (1990)	上中里 2-45 (老人ホーム) と東田端 2-20 (東日本旅客鉄道本社ビル) の発掘調査	最大厚 約 4.5m の貝層を検出		
平成 8 年 (1996)	北区が公園用地として取得した“上中里 2 丁目広場”の発掘調査 10/12、10/19: 現地説明会を開催 11/13: 天皇后両陛下が御見学	A地点の調査		
平成 9 年 (1997)	7/14: 『中里貝塚-発掘調査概報-』を発行			
平成 10 年 (1998)	3/2: 貝塚町会館にて地元説明会を開催 上中里 2-6-9, 2-8-3, 2-4 の確認調査	12月11日: 工事着手		
平成 11 年 (1999)	工場移転に伴う開発計画の事前調査 (B地点)	4月1日: 広場の開園	B地点の調査	
平成 11 年度末			3月15日: 公有地化	
平成 12 年 (2000)	上中里 2-6-2, 2-11-3, 2-18-2, 2-4, 2-10-13 の確認調査 10/21 ~ 11/19: B地点を再発掘し、貝層を一般公開 10/25: 史跡のパンフレット・小冊子を発行	9月6日: 国史跡に指定		
平成 13 年 (2001)	1/15 ~ 3/9: B地点の暫定整備 (側溝・門扉等)			
平成 16 年 (2004)	9/22 ~ 12/15: B地点の園路等整備 (園路・散水栓等)			
平成 20 年 (2008)	9/10 ~ 9/30: B地点の道路段差解消 (アスファルト舗装・境界標設置)			
平成 22 年 (2010)	10/23 ~ 12/5: 国史跡指定 10 周年記念の企画展“奥東京湾の貝塚文化”を開催 11/21: 企画展の会期中にシンポジウム“中里貝塚と縄文社会”を開催			
平成 23 年 (2011)	製油工場の解体工事に伴う確認調査 (J地点)			J地点の調査
平成 24 年 (2012)				9月19日: 追加指定 11月2日: 公有地化
平成 25 年 ~平成 26 年	9/21 ~ 3/31: J地点の史跡広場拡張整備 (フェンス・擁壁・門扉・側溝・植栽)			
平成 29 年 (2017)	中里貝塚の『総括報告書』を刊行			
平成 29 年度 ~令和元年度				保存活用計画策定



図 明治期のスケッチ (鳥居龍蔵・佐藤傳蔵調査時)

2. 調査の概要

(1) 中里貝塚の発見

東京都北区に所在する中里貝塚は、縄文時代中期から後期初頭にかけて、当時の海岸線に形成された大型の貝塚である。

夥しい量の貝殻が露出する様子は、古くから人々の耳目を集めていたようで、江戸時代後期の地誌や絵図面に「かきからやま」「かきからづか」（漢字の表記方法には種々あり）として、その様子が記されている。また『江戸志』によると、これらの蛸殻は胡粉（近代においては貝灰）の原料として転用されたことが記されている。だがこの時代、なぜ当地から大量の貝殻が見つかるのかという、要因についてまで言及するものは少なく、『江戸砂子』等が「むかし此邊入海なりしといひつたふ」と記述するにとどまる。

その中里貝塚を「遺跡」として、学界に名を広めたのは植物学者の白井光太郎である。明治19年（1886）に、「中里村介塚」と題して『東京人類学会報告』にて発表するや否や、気鋭の研究者により、中里貝塚の性格はさまざまに議論されていくこととなる。だが昭和時代に入ると、中里貝塚について記したものの多くが、この辺りに貝塚があったとの遺功を伝えるのみとなっている。尾久駅・上中里駅の開業等に伴って急速に市街地化が進み、貝塚は町並みおよびその地中に埋没していったためと推測される。中里貝塚周辺の「内貝塚」「西貝塚」「貝塚向」などの、貝塚に因んだ小字名も、昭和22年（1947）の北区成立前後の度重なる町名変更の中で次第に消えていき、現在では町会名に残されているばかりである。

中里貝塚の実態解明は、昭和58年（1983）以降に行われた一連の調査により劇的に進められていくこととなる。とりわけ平成8年（1996）に行われたA地点での調査は、最大で4.5mもの厚さにある貝層や木枠付土坑（貝処理施設）といった、中里貝塚の性格を決定づける新たな発見が相次いだものであった。白井光太郎による「中里貝塚の発見」から100有余年を経て、中里貝塚はようやくその全容が明らかとなったのである。

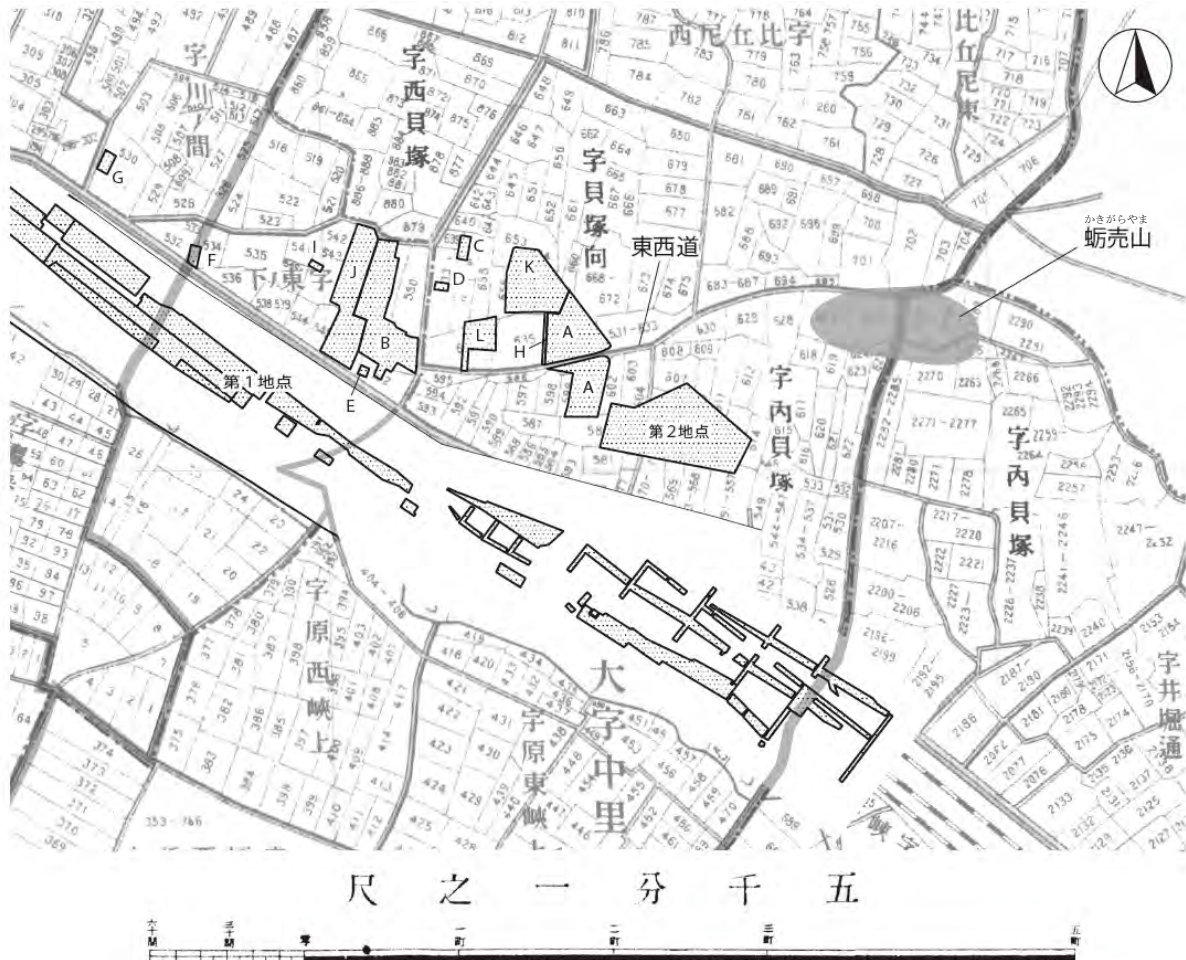


図 調査地点周辺にみえる「貝塚」地名（『史跡中里貝塚総括報告書』より）

(2) 発掘調査の概要

中里貝塚では、これまでに12地点で調査を実施し、貝層の分布範囲などを確認しているが、特徴的な遺構等は、現在の指定地にあたるA地点及びB地点で検出されている。

調査地点名	事業名	発掘調査期間	調査面積	調査者
第1地点	東北新幹線敷設	1983.6.27～1984.10.3	24,000㎡	東北新幹線中里遺跡調査会
第2地点	老人ホーム建設	1990.7.1～1991.1.19	1,700㎡	中里遺跡調査団
A地点	公園整備	1996.7.24～11.21	1,100㎡	中里遺跡調査団
	防火水槽	1996.12.6～1997.1.24	23㎡	中里遺跡調査団
	学術調査(杭区)	1996.12.6～1997.2.5	50㎡	北区教育委員会
	学術調査	1998.9.28～10.9	13㎡	北区教育委員会
B地点	マンション建設	1999.9.8～2000.1.15	650㎡	中里貝塚遺跡調査会
	確認調査(北側)	1999.9.28～10.18	60㎡	北区教育委員会
C地点	確認調査	1998.8.10～8.14	11㎡	北区教育委員会
D地点	確認調査	2000.6.27・28	9㎡	北区教育委員会
E地点	確認調査	1998.8.10	8㎡	北区教育委員会
F地点	確認調査	2000.8.14～8.18	4㎡	北区教育委員会
G地点	LPG貯槽設置	2000.9.1～9.18	72㎡	中里遺跡調査会
H地点	下水道工事	2000.9.27～10.4	31㎡	北区教育委員会
I地点	確認調査	2000.11.10	2㎡	北区教育委員会
J地点	確認調査	2011.6.20～7.25	281㎡	北区教育委員会
K地点	確認調査	2014.11.25～12.5	85㎡	北区教育委員会
L地点	確認調査	2015.2.12～3.6	47㎡	北区教育委員会

表 調査地点

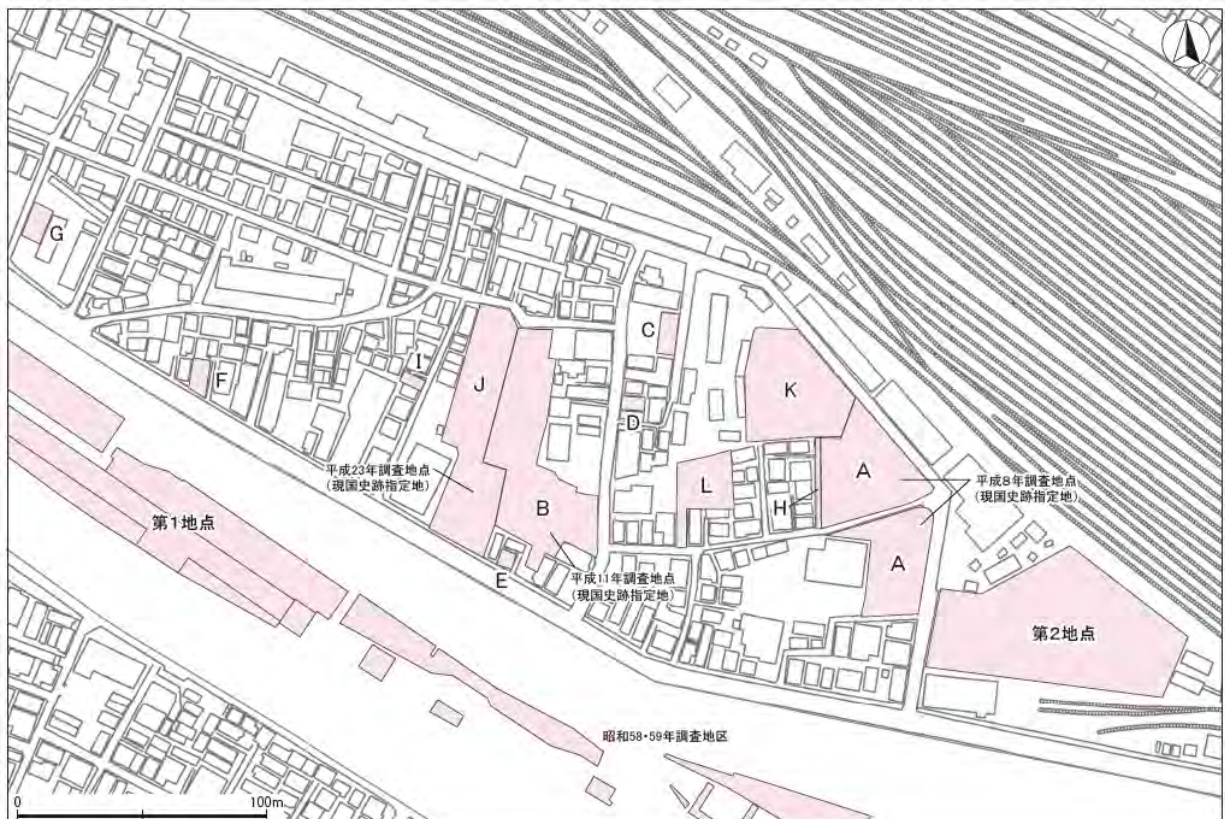


図 調査地点位置図

① A地点（東側指定地）【上中里2丁目広場】

A地点は、平成8年（1996）に調査が行われた地点で、現在の上中里2丁目広場に相当する。A地点では公園整備に先立つ事前調査で貝塚本体を検出し、長短10本のトレンチを設定してハマグリとマガキの純貝層を掘り下げた。

貝層は塚状の堆積を呈し、南北幅約30～40mの塚状の高まりが東西方向に延びる。その層厚は4.3～4.5mを最大厚とし、随所に4.0m前後を測った。層序は大きく3層に分けられ、貝層の下層はマガキ主体層、中層ではハマグリ・マガキが交互に堆積する様子がみられた。そして上層はハマグリ純貝層を覆うように再びマガキが堆積している。なお貝層上面から概ね1.5mほどの深さで湧水があるため、水中ポンプでの排水処理が行われている。

A地点第2区（南側）、貝層と田端微高地が接するところの砂層中からは、本貝塚を特徴づける木枠付土坑が2基検出された。これは枠取りをするように土坑の内面に枝を巡らせた遺構で、貝層形成の初期段階において貝を茹でる、あるいは蒸すことで、効率よくマガキの身を取り出すために使用された処理施設と推測できるものである。周辺にはこのような遺構がいくつも存在したとみられ、加工場的な空間を構成したと考えられる。なお標高3.5mを境に上部の貝層中にはレンズ状に堆積した炭化物や灰が幾重にも検出されているが、これも同様に土器を用いずに殻から貝肉を取り出した、剥き身処理の痕跡とみられている。

またA地点第1区（北側）では、貝層下に堆積するシルト層（干潟）に打ち込まれた状態の杭が6本確認されている。これらの杭は先を尖らせたもので、規則的に並んで列をなしているようである。そのことから、かつてはマガキの養殖にかかわるものとの可能性も指摘されたが、用途については不明である。

出土した遺構は、貝層を除けば限られ居住施設はない。人工遺物も一般的な貝塚に比べ、極端に少ないものであった。出土した縄文土器の総数は、小片を含めても81点である。貝類以外の動物遺体も希少で獣骨類は全くなく、海岸線に形成された貝塚であるにもかかわらず、魚骨もわずかであった。

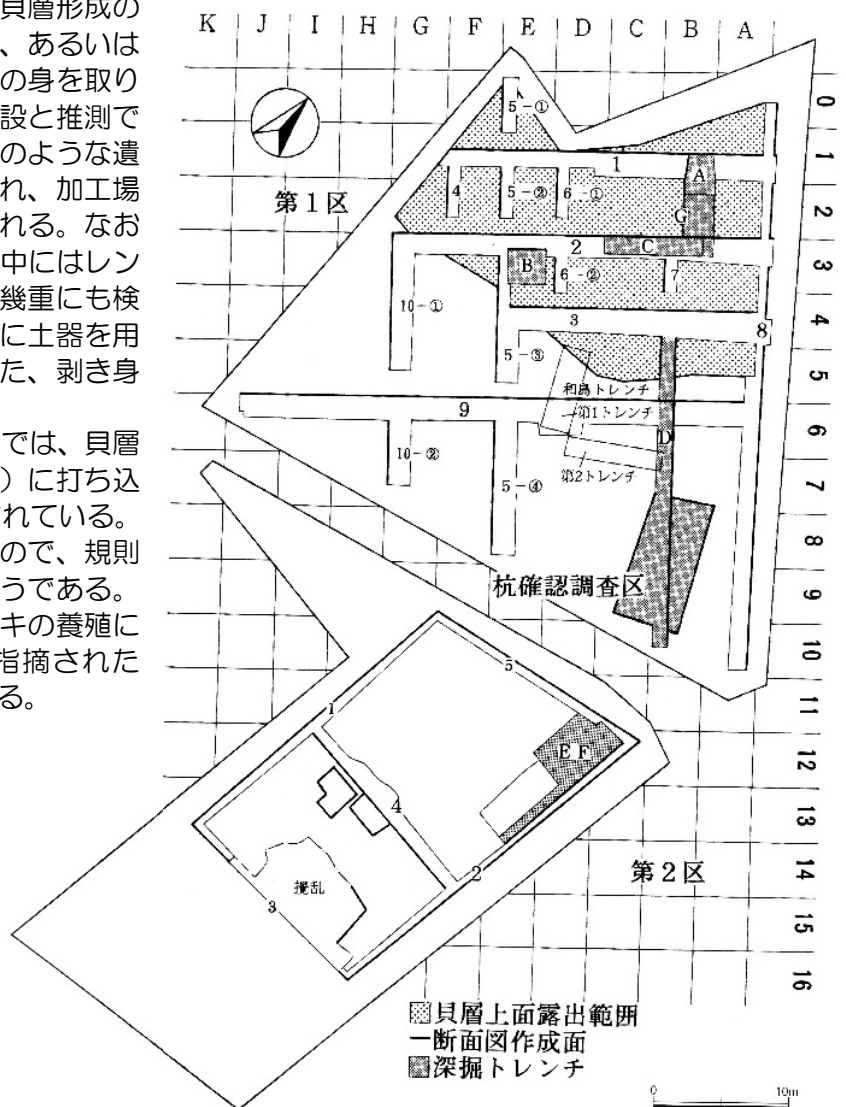


図 A地点の調査箇所（『史跡中里貝塚総括報告書』p36より引用）



図 貝層および杭列



図 木枠付土坑



図 貝処理施設模型

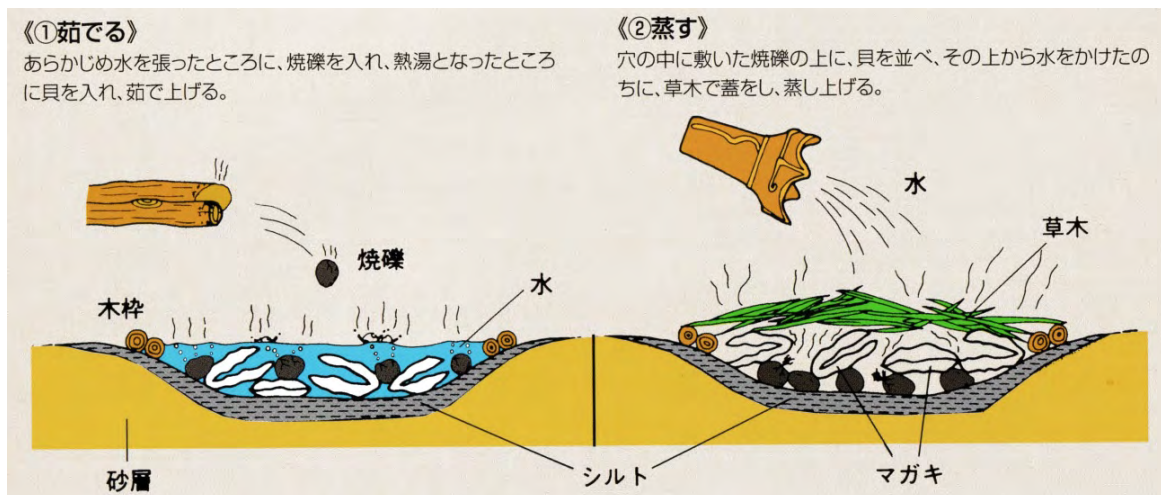


図 貝処理想定図 (『奥東京湾の貝塚文化—中里貝塚とその時代—』 p28 より引用)

② B地点（西側指定地）【中里貝塚史跡広場】

B地点は、平成11年（1999）に調査が行われた地点で、平成23年（2011）に調査が行われたJ地点とともに中里貝塚史跡広場として暫定整備されている。

B地点では、マンション建設に伴う事前調査において、L字形の敷地南側650㎡を調査区として、表土掘削を行ったところ、貝層が全面に現れた。貝層には6本のトレンチを入れて波食台まで深掘りした。敷地の北側には、範囲確認用の全長58.0mの南北トレンチを設け、貝層検出後5m間隔で12地点のボーリング調査を実施した。

検出された貝層はマガキを主体とするもので層厚2.0mに達する。貝層の堆積構造は北側に下がる斜交構造をしており、海側に貝殻を投棄している様子がうかがえる。A地点同様に人工遺物は希薄で、貝層上部には焼き火址などの薄層が無数に挟まる。

また調査区南東側、貝層直下の波食台上からは、木道とそれにつながる土坑が見つかった。木道は1本の丸木を半截したもので、半截された面を上に向け、波食台に形成された窪みにすっぽりと収まるようにして出土した。樹種はコナラ亜属で樹皮も残っており、6.5mを測る材は、調査区外にも延びるとみられる。材上面の標高はほぼ一定で、一部に加工痕が確認された。

一方土坑は、木道の根に接し、波食台を楕円形に掘り込んで造られていた。規模は南北方向の長軸が3.2m、短軸1.7m、最深0.5mを測る。木道と土坑からは、縄文土器11点、土器片錘2点、イタボガキ1点、加工材5点（木道含む）、石器2点の他、313点の礫（うち300点は土坑に集中）が出土している。

木道には、土坑までの通路としての足場の確保や目印であった機能が想定されるが、土坑の用途は不明な点が多い。ただし土坑内部の貝類分析から、干潮時でも海水が残る潮だまりであったことが推定され、海水が浸入する海岸において何らかの活動を行った様子が想定される。

またB地点の西側に位置するJ地点は、大正時代から操業する工場の解体工事ののちに範囲確認調査を行ったものである。クランク状の南北に細長い敷地1785㎡において貝層の堆積状況と範囲確認を目的とし、南北方向に任意で調査区南側に1本、北側に2本の計3か所のトレンチ調査を実施した。

なお地表下1.2m～1.5m付近の貝層中で湧水があり、湧水対策としてトレンチ内にテストピットを兼ねた排水桝を設け、水中ポンプで排水しながら調査は進められ、波食台の高度や貝層の層厚、焼き火址の有無等が確認されている。

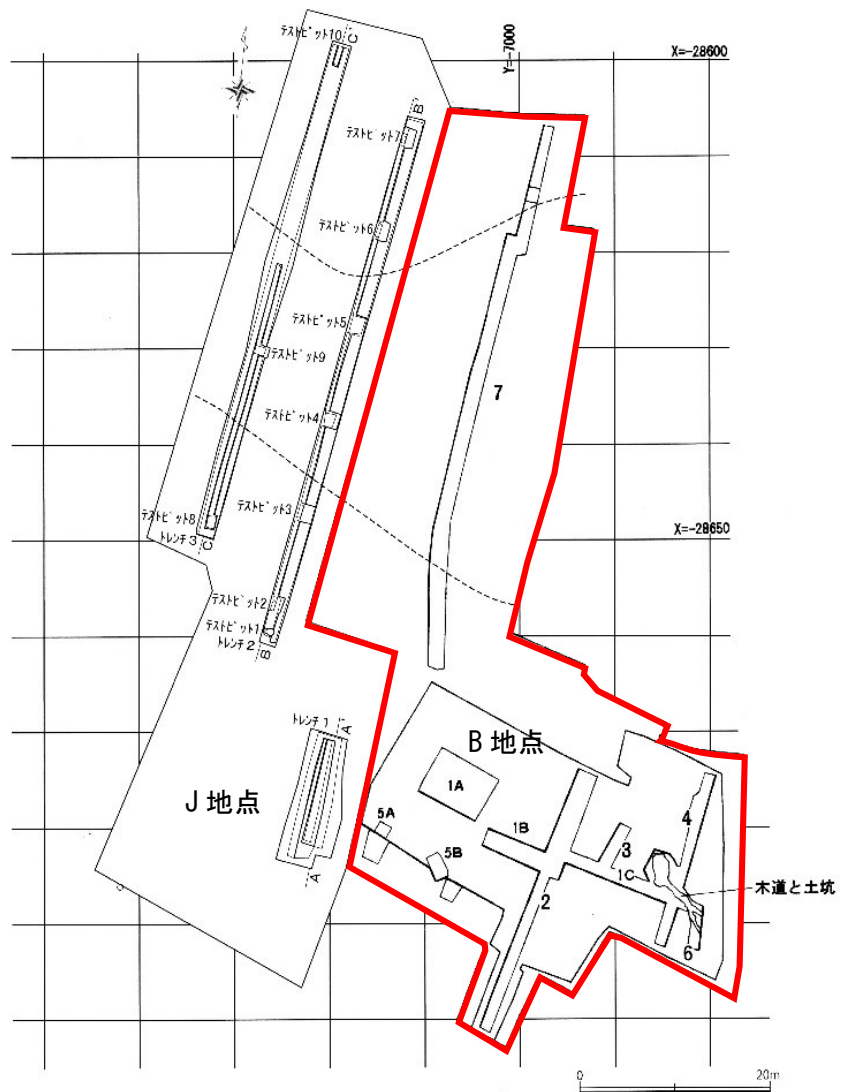


図 B地点・J地点の調査箇所
 (『史跡中里貝塚総括報告書』p59より引用)



土坑とそれに続く木道



木道断面



土坑内礫出土状況

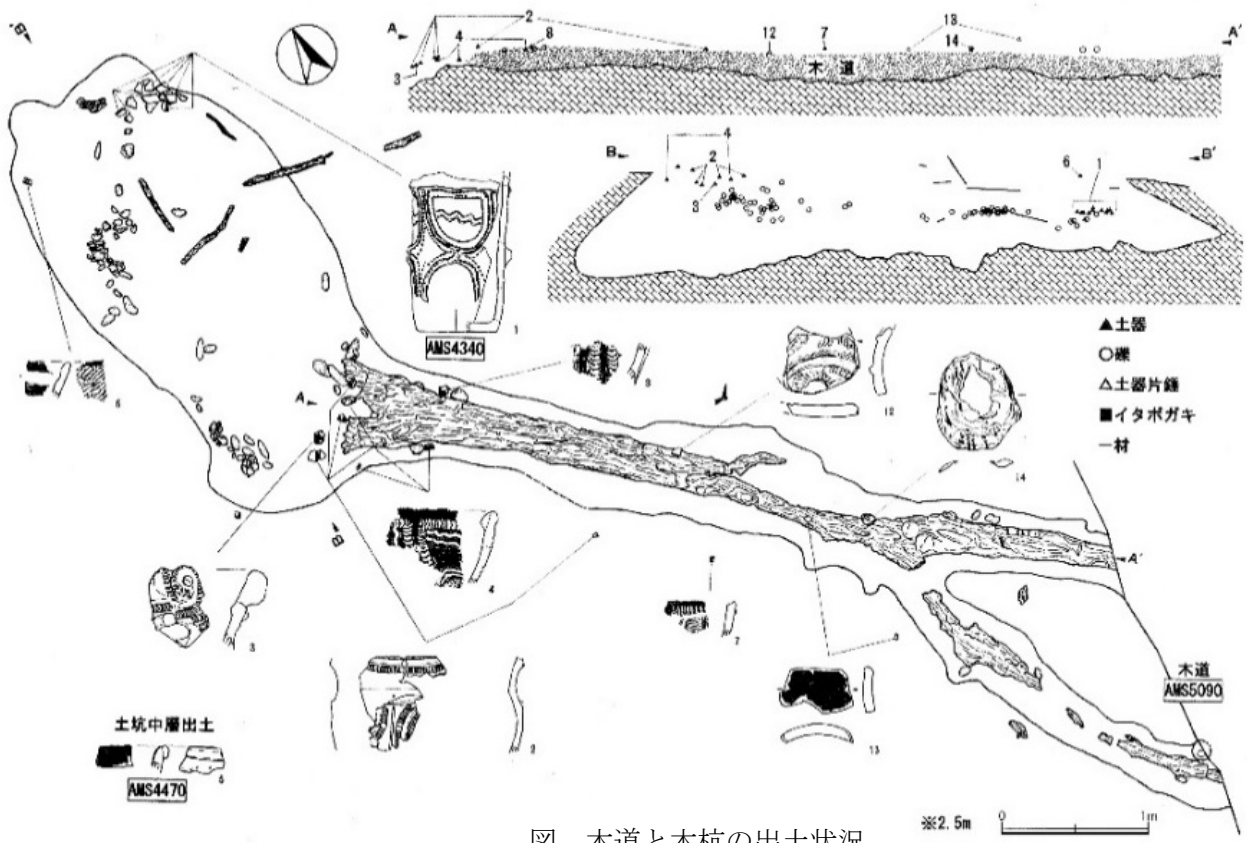


図 木道と木杭の出土状況
 (『史跡中里貝塚総括報告書 p62 より引用)

3-2 史跡中里貝塚の本質的価値の把握

中里貝塚は、縄文時代中期から後期初頭の海浜部に形成された大型の貝塚である。資源管理を行いつつ、採貝および剥き身処理、貝殻の投棄が近接した場所で、約800年にわたり繰り返された結果、形成されたものである。生活のしない分厚な貝層は、本貝塚が貝類加工に特化した場であることを如実に語る存在である。

しかし貝塚近隣に大規模集落はなく、膨大な貝類の消費に見合うほどの人口があったとは考え難い。だが視野を広げると、武蔵野台地に刻まれる中小河川に沿うように、同時期の集落が密度濃く分布する様子がうかがえる。

武蔵野台地の北東側には荒川、南西側には多摩川が流れ、武蔵野台地を画するが、その荒川や多摩川あるいは東京湾へと注ぐ、いくつもの中小河川の流れが台地に谷を刻んでいる。それら河川の多くは、扇状地形を成す武蔵野台地の内陸部に水源をもち、長いものでは流路延長が25kmを超える。これらをさかのぼることで、河口部から台地内陸部まで比較的容易にたどり着くことができるのである。殻から取り出し、干し貝とした貝類は保存にも運搬にも適している。本貝塚で加工された貝類は、内陸部集落まで持ち運ばれ、彼の地で消費されたと推察される。

貝塚は立地や出土遺物（食資源の残滓などを含む）の違い、居住地か否かなどによって「ムラ貝塚」と「ハマ貝塚」という類型に区分される。中里貝塚は「ハマ貝塚」を代表する貝塚であり、縄文時代の生産や流通、社会構造や地域的な分業体制などを考える上で不可欠の遺跡である。「史跡中里貝塚保存活用計画」では、中里貝塚が有する本質的な価値を、次の5点に整理している。

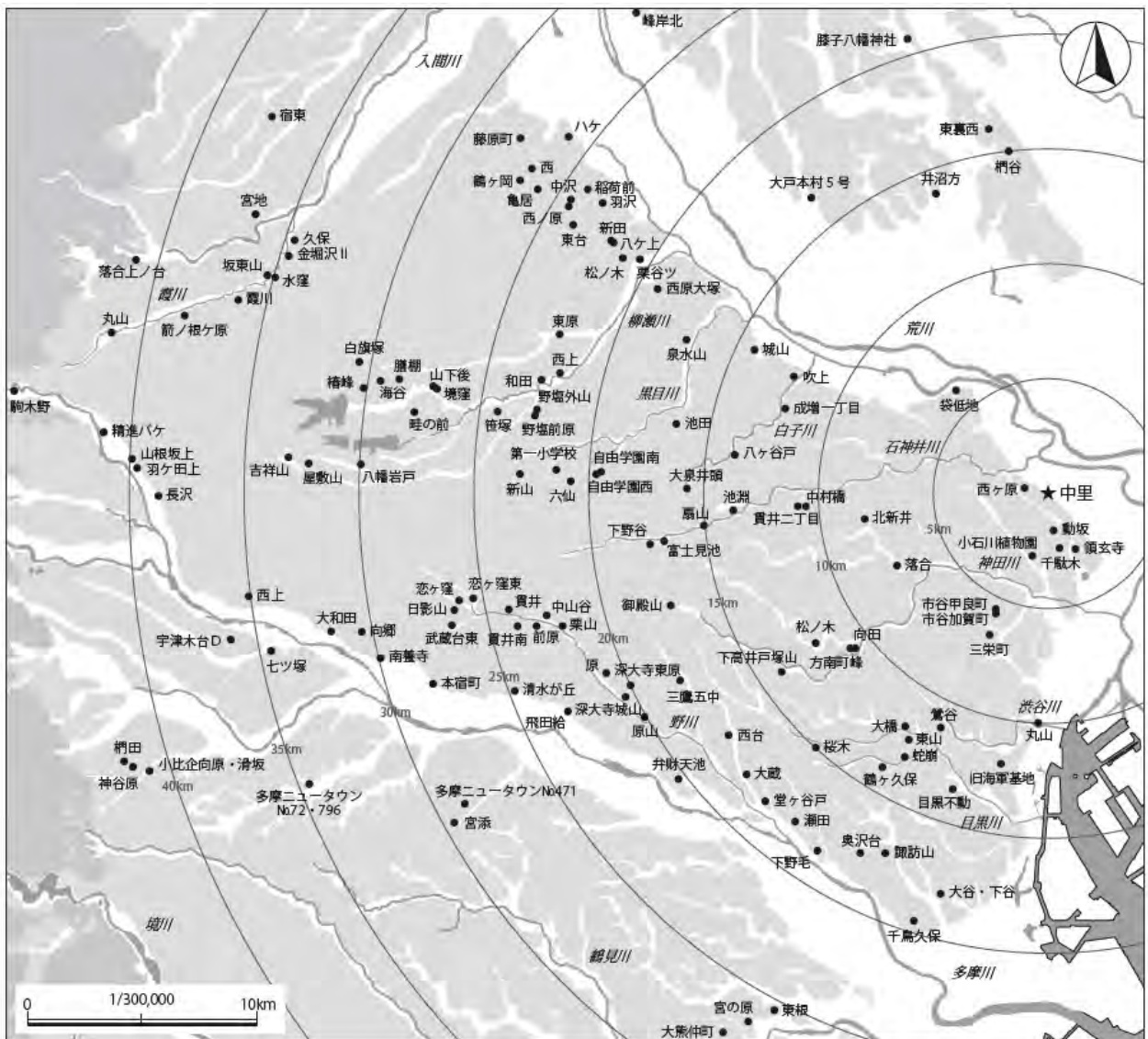


図 武蔵野台地及び周辺の縄文時代中期主要遺跡分布図（『史跡中里貝塚総括報告書』p14より引用）

(1) 貝類利用に特化した場

中里貝塚で検出された遺構は、貝層の他には木枠付土坑や焚き火址の貝類の剥き身処理に関わるものに限られ、居住施設はみられない。出土遺物は、土器や石器などの人工遺物が少なく、貝類以外の動物遺体は獣骨類がなく、魚骨もごく微量であった。中里貝塚では狩猟活動は見られず、漁労活動も採貝以外は極めて低調であった。

このことから、中里貝塚は貝類利用に特化した場であり、活動の限定性が顕著で、「ハマ貝塚」の典型的な特徴となっている。

(2) 専門性の高さを物語る貝塚

貝種はマガキとハマグリに限定し、しかも大型個体が選択的に採貝されている。マガキとハマグリは採貝季節が異なり、食材の旬を意識した資源の利用形態が見て取れる。マガキとハマグリは干貝に加工されたと推定され、貝殻などの残滓は海岸線に廃棄し、貝層が形成された。また、大型個体の均質的なサイズを維持するため、生産者集団の計画的な資源管理が予測できる。

中里貝塚で組織的に行なわれたマガキとハマグリは、このような専門性の高さを物語っている。

(3) 国内最大規模を誇る貝層の分布範囲

中里貝塚の貝層は、東西方向に長さ700m、幅100m以上の広い範囲に分布し、貝層の中心部分の層厚は2.0~4.5mと厚い。

帯状に連なる貝層の形状は、「ムラ貝塚」にみられる馬蹄形や環状とは大きく異なる。また、貝層の面積は約61,800m²、その総体積は約92,700m³とみられており、関東地方の最大級とされる東京湾東岸の大型貝塚と比べ、隔絶した規模を有している。その要因は、縄文時代中期中頃から後期初頭にかけて約800年間に亘る、継続期間の長さと同規模の大きさによるものである。

このように、中里貝塚の貝層規模は国内で最大規模であり、他に例を見ない。

(4) 海浜部の景観を復原できる縄文貝塚

中里貝塚は、縄文時代中期の海岸線に大量のマガキとハマグリは貝殻を廃棄し続けた結果、干潟を埋め立てて形成された貝塚である。

その立地は、海退が進んだ縄文時代中期に形成された田端微高地という砂洲の北西辺に面している。中里貝塚北側には内湾が広がり、マガキやハマグリが生息する泥質干潟や砂質干潟の水域環境になっていた。

中里貝塚は、各種分析を通じて当時の立地や環境を明らかにすることが可能な、多くの情報を包含する貝塚である。

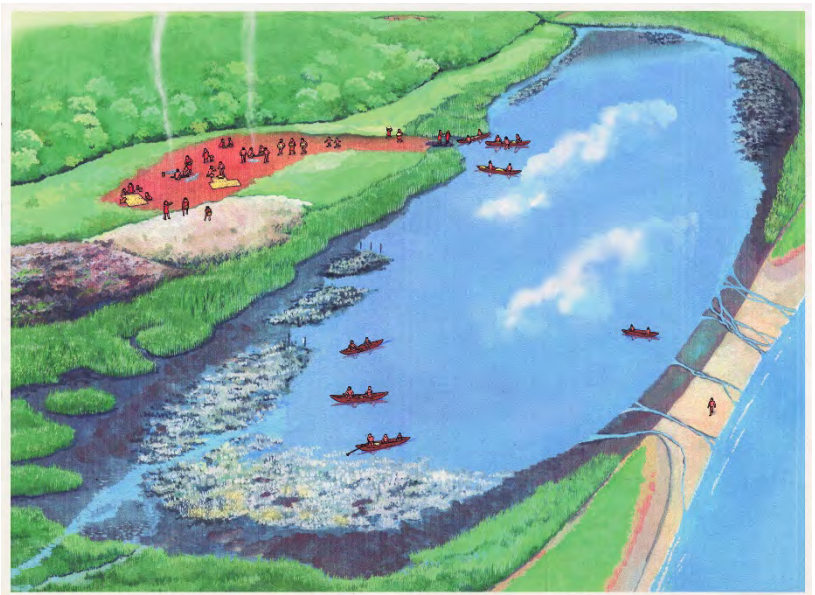


図 中里貝塚想像図（さかいひろこ氏作画）

(5) 内陸部集落へ供給する拠点となる貝塚

中里貝塚で生産された膨大な量の干貝は、石神井川など武蔵野台地を刻む河川流域の集落遺跡群に供給されたものと考えられる。これら内陸部集落の需要の高まりと軌を一にするように、干貝の生産加工が専門的に行なわれた中里貝塚は、生産と流通の拠点となる貝塚として位置づけられる。このことから、沿岸部の漁労集団と内陸部の狩猟・採集集団は地域的な分業体制を敷き、両者間で食料物資などを交換することで、陸海の多様な資源環境を利用する広域的システムを構築していたと推定できる。

中里貝塚は、東日本に展開した縄文時代という定住化社会において、高度な水産資源の利用形態を象徴的に示す「ハマ貝塚」であり、自給自足を超えた集団間の互惠関係がもたらす縄文社会を考える上でも重要である。

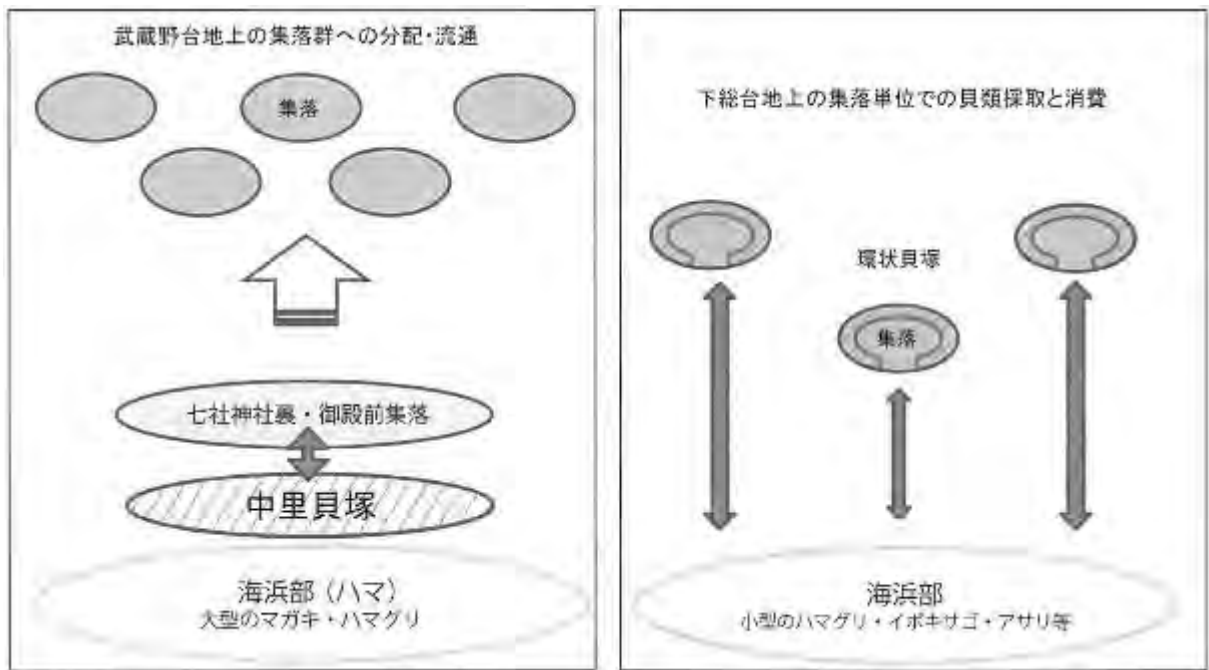


図 武蔵野台地と下総台地の貝類利用形態の地域性 (『史跡中里貝塚総括報告書』 p179 より)

ムラ貝塚とハマ貝塚

ムラ貝塚

居住空間に付随して設けられた破棄空間の一つであり、破損した土器や石器などの不要となった生活資材や食料残骸などの多様な廃棄物から構成されている。

(例) 西ヶ原貝塚、加曾利貝塚 (千葉県千葉市)

ハマ貝塚

海浜部生態系(ハマ)の管理を行い、その資源をムラとは異なる空間で加工した貝塚である。

(例) 中里貝塚、大西貝塚 (愛知県豊橋市)



(『奥東京湾の貝塚文化—中里貝塚とその時代—』 p.19 より引用)

3-3 史跡を構成する要素

史跡の指定地およびその周辺に存在する要素は、「本質的価値を構成する要素」と「本質的価値に準ずる要素」、「その他の諸要素」に分類できる。

史跡指定地内

構 本 成 質 的 価 値 を	最大厚4.5mの貝層、木道、土坑、焚き火跡、貝層に打ち込まれた杭、作業空間としての砂堆（木枠付土坑を含む）、波食台地形、地下に埋蔵されているその他の遺構や遺物、北区飛鳥山博物館に展示・収蔵されている貝層の剥ぎ取り標本や出土遺物	
そ の 他 の 諸 要 素	本質的価値に密接に関わる要素	史跡の保護に有効な要素 史跡標柱、史跡の解説板、境界標
	それ以外の要素	史跡の保存活用に有効な要素 住宅密集地のオープンスペース、ベンチ、屋外卓、公園灯、金網柵、フェンス扉、分電盤、トイレ、水飲み台、植栽 史跡保護のために調整が必要な要素 広場の看板、町会・自治会の掲示板、防球ネット、時計、防災倉庫、防火水槽、資機材庫、ゴミ箱、ブロック敷、集水枡、側溝、植栽（地下遺構に影響を及ぼすおそれのある高木など）

史跡指定地外

構 本 成 質 的 価 値 を	最大で長さ700m、幅100mに広がる貝層、作業空間としての砂堆、地下に埋蔵されているその他の遺構や遺物	
準 ず る 価 値 に	江戸前期～明治期の貝殻を材料とした産業（胡粉・焼石灰）、古代に遡るとみられる道路、中世板碑、古墳（人物埴輪・刀子・玉類）	
そ の 他 の 諸 要 素	本質的価値に密接に関わる要素	中里貝塚の当時の姿を理解する上で重要な要素 中里遺跡（丸木舟、集石遺構など）、高台の集落（七社神社裏貝塚、御殿前遺跡、西ヶ原貝塚、東谷戸遺跡など）、当時の活動の場を想起させる地形（田端微高地、飛鳥山微高地）
	それ以外の要素	史跡保護のために調整が必要な要素 中里貝塚に広がる宅地、道路、鉄道敷地など

3-4 史跡指定地の現況

1. 史跡の整備・活用のための諸条件の把握

(1) 計画対象地の主な活用状況

① 史跡指定地

2箇所の指定地は、「中里貝塚史跡広場」「上中里2丁目広場」として一般開放されている（夜間は閉鎖）。線路群に挟まれる位置にあり、JR3駅（尾久駅・上中里駅・田端駅）から近いため、見学者の多くは徒歩で訪れている。史跡の見学を主目的で訪れる個人見学の他、北区観光ボランティアガイドなど街歩きの一環としての団体見学も散見される。ただし史跡の活用に特化したボランティア等の組織はない。なお発掘調査の際には、現地見学会や地元説明会を実施し、平成8年（1996）の調査時には、2日間で3,000人を超える見学者が現地を訪れている。

また住宅密集地に位置する数少ないオープンスペースであることから、ラジオ体操やもちつき大会、防災訓練などの地域のイベント会場、また園児や高齢者の散歩、休日のピクニックなど、地域住民の憩いの場として利用されている。平成23年（2011）3月に発生した東日本大震災の際など、災害時の一時的な避難場所としても活用されている。



一般向け見学会



学校団体向け見学会



現、上皇上皇后両陛下ご来跡

現地見学の様子



ラジオ体操



もちつき大会



防災訓練

地域イベントの様子

② 北区飛鳥山博物館

東京都北区王子1丁目の飛鳥山公園内に立地する、区立博物館である。郷土風土博物館として、北区の歴史・文化・自然について総合展示を行っている。来館者数は年間12万人前後を数える。JRや東京メトロ、都電、都バス等の公共交通機関、自家用車を利用した個人見学のほか、学校や高齢者施設、街歩き等の団体見学にも多く活用されている。

中里貝塚に関しては、貝層剥ぎ取り標本の常設展示や出土資料の収蔵の他、企画展や講座・シンポジウム等の普及事業を展開している。またパンフレットやリーフレット、史跡を巡るガイドマップを作成・頒布し、史跡の周知を図っている。なおこれらの普及事業は、学芸員をはじめとする博物館職員が行っている。現状として友の会やボランティア等の組織はない。



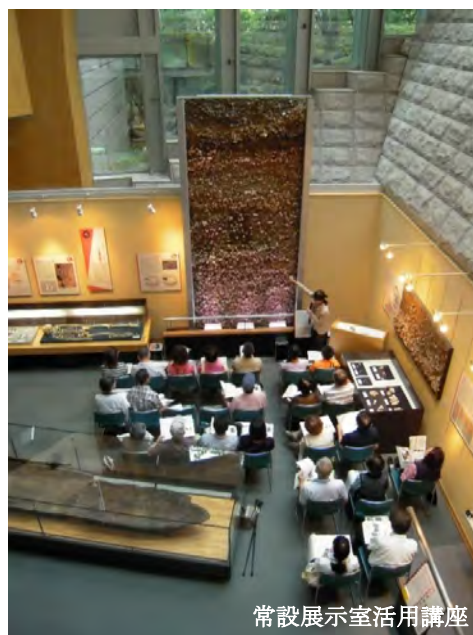
企画展示



団体見学



シンポジウム



常設展示室活用講座



野外講座



印刷物

博物館事業の様子

(2) 地域住民等の要望

これまでに地元説明会やワークショップ等で、史跡の整備活用に関しては、さまざまな要望や意見が寄せられている。主なものを以下に記す。

史跡指定地について

- 実際の貝層を見られるようにしてほしい。
- 貝層の剥ぎ取り標本を展示するなど、実物または模型を作り、直接見たり、触れられたりできるようにしてほしい。
- 貝層の発掘体験をしてみたい。
- 干し貝作りや縄文フェスティバルなど、体験イベントを開催してほしい。
- 管理や解説をする指導員がいると良い。
- 憩いの場としてトイレやベンチ、日除けなどの便益施設を設置してほしい。
- 今後も地域のふれあいの場や防災拠点としての、地域住民のための機能を維持してほしい。

動線計画について

- 最寄り駅からの案内やサインを、順路に設けてほしい。
- 住民生活に配慮した動線を案内してほしい。
- 見学地が離れているので、シャトルバスなどで移動できると良い。

その他

- 貝塚ツアーを行ってほしい。
- VRやAR等で、貝塚や海岸、縄文人のくらしの様子を見てみたい。
- 課外授業に組み込んでもらうなどして、小中学生が定期的に勉強できるカリキュラムづくりが必要。
- 史跡展示施設を設置し、見学や体験等ができるようにしてほしい。
- 史跡のPRにはキャラクターが必要。



曾谷縄文祭り（千葉県市川市）



軍神原遺跡発掘体験（宮崎県都城市）



加曽利貝塚断面観覧施設（千葉県千葉市）



パーゴラベンチイメージ

各地での整備活用例

2. 課題の整理

(1) 計画対象範囲全体

現地性

- ・ 計画対象範囲は広大な範囲に及びが、その大部分は鉄道や道路等の公共交通施設や住宅、商業ビルなどに利用されている。史跡指定地は2カ所に分かれているものの、両所を合わせると貝層分布範囲の約 1/10 の広さとなる。しかしながら、ともに市街地に埋没した状況にあるため、史跡全体を具体的に理解することは困難である。

周辺環境

- ・ 中里貝塚史跡広場と上中里2丁目広場の位置、また2つの史跡指定地と北区飛鳥山博物館との位置関係や距離、最寄り駅等からの動線を示す案内施設がない。
- ・ JR 線線路西側に点在する、中里貝塚の形成に深くかかわる遺跡群の詳細や位置関係を示す案内施設がない。
- ・ 計画対象範囲内の移動手段は、徒歩に頼る部分が大きく、ユニバーサルデザインとなっていない。

運営体制

- ・ 史跡の本質的価値の発信は、現在のところ、博物館活動に付帯するものが主であり、中里貝塚の整備活用に特化した活動組織がなく、また他のボランティア団体等との連携も不十分である。

(2) 史跡指定地

① 中里貝塚史跡広場

現地性

- ・ 現在は暫定整備ということもあり、遺構を表示する施設としては史跡標柱、文化財説明板のみで、広場内で史跡について学べる場、遺構や遺物を理解し体感できる場になっていない。
- ・ 現地で史跡の本質的価値を体感できることが望ましいが、周辺は地下水位が高いことから、遺構を再度露出させ展示する等の手法による実物資料の展示は現実性に乏しい。
- ・ 北区飛鳥山博物館から徒歩 1.5 kmと移動距離があり、博物館に展示されている「中里貝塚」の歴史性、遺構や遺物について現地性を体感することが難しい。

活用環境

- ・ 広場内は、芝生広場となっているが、トイレやベンチ、日除けとなる施設など、便益施設が整備されていないことから、体験学者の場のみならず、“休憩” “くつろぎ” といった滞留目的にも対応していない。

② 上中里2丁目広場

現地性

- ・ 現在は、広場を主とした地区の街区公園としての要素が強く、史跡を表す施設としては史跡標柱、文化財説明板のみで、広場内で史跡について学べる場、遺構や遺物を理解し体感できる場になっていない。
- ・ 現地で史跡の本質的価値を体感できることが望ましいが、周辺は地下水位が高いことから、遺構を再度露出させ展示する等の手法による実物資料の展示は現実性に乏しい。
- ・ 北区飛鳥山博物館から徒歩 1.6 kmと移動距離があり、博物館に展示されている「中里貝塚」の歴史性、遺構や遺物について現地性を体感することが難しい。

整備環境

- ・ 名称が「上中里2丁目広場」となっており、史跡との関連がイメージしづらい。
- ・ 広場南側にある既存樹木が成長しており、地下遺構への影響が懸念される。



第4章 基本理念・基本方針

第4章 基本理念・基本方針

4-1 基本理念及び整備目標の設定

史跡の整備における基礎的な方針については、「史跡中里貝塚保存活用計画」にて、以下のよう
に記している。

特徴的なハマ貝塚の価値を感じ、高める

— 史跡の本質的価値を顕在化し、現地で貝塚を実感できるような環境整備を目指す —

中里貝塚の本質的価値は、ほぼ全てが地下に埋もれた状態であるため、それらの価値を
顕在化し、あらゆる世代の人々に分かりやすく発信する必要がある。また国内最大規模の
縄文貝塚を体感できるような整備を目指しつつも、史跡の価値を損なうことのないように
地下遺構の適切な保護措置を講じることも重要である。

なお過去の調査範囲は、中里貝塚全体から見るとごく一部である点や、指定地が2箇所
に分かれている点から、今後の追加調査や追加指定も見据え、段階的な整備内容を検討す
る必要がある。

4-2 整備のテーマ

第1節に記した基礎的な方針に、前章までに検討した事項と課題を踏まえ、整備のテーマを以下
のように設定する。

マチナカで出会う縄文文化 — 史跡が拓く新たな未来 —

中里貝塚は、特定の貝種に限定して、漁期を違えて大型個体を選択的に採集し、水揚げした浜辺で
干し貝加工を専門的に行っていた水産加工場跡である。これら干し貝は、中小河川を遡った内陸部
集落へ供給されたと考えられる。中里貝塚はこうした他地域との連携のもとで出現した分業システ
ムによって海岸地形に形成された遺跡であり、東日本に展開した定住化社会における高度な水産資
源の利用形態を象徴的に示す貝塚として重要である。

遺跡の本格的な調査、そして最初の史跡指定より20年が経過するが、現在その本質的価値は地
下に埋没している状況にある。現在、日本最大規模を誇る貝塚のごく一部のみが史跡に指定されて
いる。しかしその史跡指定地においても、景観の創出は成されていないため、現地で史跡を学んだ
り、地域学習の場として活用されたりする機会に乏しく、史跡に対する認知度は低い。中里貝塚の本
質的価値の活用にあたっては、住民生活に十分に配慮しつつ、「周知」と「体感」を軸に、史跡の本
質的価値を顕在化させることで、情報発信基地としての機能を高めることが肝要である。

また近年、都市部では世代交代や大型マンションの建設等が進み、人と人とのつながりの希薄化
が問題視されている。現在、2箇所の史跡指定地は、市街地における、数少ない公開空地として住民
の憩いの場となっている。加えて災害時の一時的な避難場所として、防災面でも大きな期待が寄せ
られている。

史跡は国民共有の財産であるとともに、地域のきずなを深めるための資源の1つとなりうるもの
である。中里貝塚の整備活用においては、都市部にある本史跡ならではの手法で、住民生活に溶け込
み、地域と一体化した史跡の整備活用を、地域住民とともに目指すこととする。

4-3 整備の基本方針

昨年度に策定した「史跡中里貝塚保存活用計画」では、以下の整備の方向性を示した。

本質的価値を周知するための整備

中里貝塚の調査・研究成果の発信を充実させることは、史跡に対する理解を深め、その保護を確かなものとさせる。中里貝塚を知り、区民が主体となって、確かな形で史跡を未来に伝えられるような整備を目指す。

本質的価値を体感するための整備

現在の史跡指定地では現在、貝塚を体感することは難しい。しかし中里貝塚を特徴づける要素は、現地を訪れ、史跡の立地環境や広がりを感じることこそ、より深い理解につながるものである。現地で史跡の本質的価値が体感できるような整備を目指す。

そこで、「第2節 整備のテーマ」実現のため、「周知」「体感」を軸とした以下の3項目を、整備の基本方針とする。

縄文空間の創出・継承

中里貝塚の本質的価値を顕在化させ、史跡を感じ、伝え、つないでいくことで、史跡を確実に保存し、次世代へと継承させるための環境を整備する。

史跡を「感じる」

中里貝塚の本質的価値を知るための環境の整備

史跡の現地にて、貝層や木枠付土坑（貝処理施設）等の遺構や貝処理作業の様子、古環境、規模が体感できるような環境の整備を行う。またそれらを補佐する諸活動の場を整備する。

史跡を「伝える」

中里貝塚の本質的価値を発信するための環境の整備

継続的な調査研究を行い、それらの成果を公開・周知するための環境を整えるとともに、現地案内や体験学習・イベント等の担い手を確保する。

史跡を「つなぐ」

史跡を次世代へ確実に継承するための、運営体制の整備

地域住民および関係諸機関との連携の下、遺構の保存を前提とした整備を行う。また専門職員（学芸員）のほか、現地案内や体験学習・イベント等の運営のためのボランティアを段階的に育成するなど、円滑な世代交代を意識した人員体制を整備する。

縄文空間に調和した多目的広場の整備

史跡指定地である中里貝塚史跡広場・上中里2丁目広場においては、縄文空間の創出を基本原則として整備を行うが、市街地の数少ない広場として、地域住民のきずなづくりの場および一時的な避難場所として活用実態にも留意した整備を行う。

周辺環境の整備

計画対象範囲内のネットワーク化を図り、各地を有機的につなぐための動線およびサインを整備する。ただし計画対象範囲内は、市街地であるため、住民生活に十分に配慮し、住民生活との共生を図る。

